

令和 5 年度

湧別町教育委員会
点検・評価報告書

令和 6 年 9 月

湧別町教育委員会

もくじ

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	(1) 趣旨	
	(2) 点検・評価の対象	
	(3) 点検・評価の流れ	
2	教育委員会の活動状況・・・・・・・・・・	3
	(1) 教育委員会会議の開催及び審議状況	
	(2) 教育委員会会議の項目別点検	
	(3) 教育委員会会議以外の活動状況	
3	点検評価報告書・・・・・・・・・・	9
	(1) 学校教育	
	No. 1 学校運営事業（小中一貫教育の推進）	
	No. 2 " （学力向上の取り組み）	
	No. 3 " （ＩＣＴ教育）	
	No. 4 " （安全・安心な学校づくり）	
	No. 5 " （豊かな心と健やかな体の育成）	
	No. 6 " （特別支援教育の推進）	
	No. 7 部活動地域移行事業	
	No. 8 中高一貫教育推進事業	
	No. 9 北海道湧別高等学校存続対策事業	
	No.10 国際理解教育事業	
	No.11 学校給食センター運営事業	
	(2) 社会教育	
	No. 1 社会教育振興事業（家庭教育）	
	No. 2 " （青少年教育）	
	No. 3 " （成人教育）	
	No. 4 " （高齢者教育）	
	No. 5 社会教育施設	
	No. 6 スポーツ活動振興事業	
	No. 7 芸術文化活動振興事業	
	No. 8 博物館・文化財保護活動	
	No. 9 図書館活動振興事業	
4	事業実績表・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
	(1) 令和5年度学校教育事業の実績表	
	(2) 令和5年度社会教育事業の実績表	
5	外部評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・	52
6	参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・	55
	(1) 令和5年度 教育行政執行方針	
	(2) 湧別町教育目標、湧別町学校教育目標、湧別町社会教育目標	

1 はじめに

(1) 趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、各教育委員会において、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

このことを受け、湧別町教育委員会は効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、教育委員会の事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行い、学識経験者の意見を付して報告書を作成・公表しております。

(2) 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、教育委員会の活動状況等の点検のほかに、令和5年度教育行政執行方針に掲げられた主要な事業の実施状況について点検・評価を行いました。

(3) 点検・評価の流れ

「教育委員会会議の活動状況」等については、教育委員会会議の開催状況や会議に付議された案件等について、項目別に点検を行うとともに、委員が出席した会議等の点検を行いました。

「点検・評価報告書」については、「令和5年度教育行政執行方針」に掲げられた主要な事業の内容、事業成果、自己評価及び今後の課題と方策を所管課が作成するとともに、点検・評価の客観性を確保するため、点検・評価の方法や結果などについて学識経験を有する方からのご意見を聴取しています。

【参考】

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会会議の開催及び審議状況

湧別町教育委員会の会議は原則として、毎月1回の「定例会」と、必要に応じて開催する「臨時会」があり、令和5年度は、合計13回の会議を開催しました。

この会議において、教育行政の基本方針の決定、教育に関する規則の制定など、様々な議題について審議等を行っております。

期 日	付議案件等（○～報告、□～議案、△協議）
R5. 4. 28 【定例】	☐ 湧別町教育支援委員会委員の解職及び委嘱について ☐ 学校運営協議会を設置する学校の決定について ☐ 学校運営協議会委員の解任および任命について ☐ 湧別町学校給食センター運営委員の解嘱及び委嘱について ☐ 湧別町社会教育委員の委嘱について ☐ 湧別町図書館協議会委員の任命について ☐ 令和5年度奨学生の決定について
R5. 5. 26 【定例】	☐ 第38回サロマ湖100kmウルトラマラソンの開催について ☐ 湧別町相互交流事業ニュージーランド・セルウィン町派遣事業参加者の決定について ☐ 湧別町立学校における教職員のハラスメント防止等に関する要綱の一部を改正する要綱の制定について ☐ 令和5年度湧別町社会教育推進計画の策定について ☐ 令和4年度準要保護児童生徒の認定について ☐ 令和5年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について
R5. 6. 15 【定例】	☐ 令和5年度教育費予算の補正について
R5. 7. 27 【定例】	☐ 湧別地区義務教育学校体育館増築工事（建築主体工事）請負契約の締結について ☐ 湧別地区義務教育学校体育館増築工事（電気設備工事）請負契約の締結について ☐ 湧別地区義務教育学校体育館増築工事（機械設備工事）請負契約の締結について ☐ 上湧別地区義務教育学校校舎増築工事（建築主体工事）請負契約の締結について ☐ 上湧別地区義務教育学校校舎増築工事（電気設備工事）請負契約の締結について ☐ 上湧別地区義務教育学校校舎増築工事（機械設備工事）請負契約

期 日	付議案件等（○～報告、□～議案、△協議）
	の締結について ○上湧別地区義務教育学校開設準備委員会の設立について
R5. 8. 8 【定例】	○教育財産の取得について ○教育財産の取得について □令和 5 年度教育費予算の補正について □令和 6 年度に小学校及び義務教育学校前期課程において使用する教科用図書の採択について □令和 6 年度に中学校及び義務教育学校後期課程において使用する教科用図書の採択について □令和 6 年度に使用する教科用図書のうち学校教育法附則第 9 条に規定する教科用図書の採択について △令和 5 年度全国学力・学習状況調査の結果公表について
R5. 9. 7 【定例】	○上湧別地区義務教育学校開設に係る協議経過について ○車両事故について □湧別町部活動地域移行検討委員会設置要綱の制定について □学校運営協議会委員の任命について □令和 4 年度教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書（案）について □令和 5 年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について
R5. 10. 26 【定例】	○教育委員会委員の任命の同意について ○令和 5 年度全国学力・学習状況調査の結果の公表内容について □湧別町立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について □湧別町立学校養護教諭及び栄養教諭の標準的な職務の内容及びその例並びに職務の遂行に関する要綱の制定について □湧別町部活動地域移行検討委員会委員の委嘱について
R5. 11. 22 【定例】	○上湧別地区義務教育学校開設に係る協議経過について □湧別町学校給食センター運営委員の委嘱について □令和 5 年度準要保護児童の認定について
R5. 12. 8 【定例】	□令和 5 年度教育費予算の補正について
R6. 1. 18 【定例】	□湧別町立学校職員の自家用車の公用使用に関する要綱の一部を改正する要綱の制定について □湧別町通学路交通安全プログラムの改訂について □令和 6 年度教育委員会関係当初予算について
R6. 2. 28 【定例】	○上湧別地区義務教育学校開設に係る協議経過について □湧別町招致外国青年任用規則の一部を改正する規則の制定につ

期 日	付議案件等（○～報告、□～議案、△協議）
	いて □湧別町奨学金奨学生の選定基準の一部を改正する基準の制定について □上湧別地区義務教育学校の整備に係る施設整備計画の策定について □令和５年度教育費予算の補正について □令和５年度準要保護児童生徒の認定について □令和６年度教育行政執行方針について □令和６年度教育費予算について △令和５年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果公表について
R6. 3. 21 【定例】	○令和５年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果公表内容について □湧別町教育アドバイザーの任用に関する規則の一部を改正する規則の制定について □湧別町社会教育関係団体補助金交付要綱の一部を改正する要綱の制定について □湧別町学校医等の任命について □湧別町教育アドバイザーの任命について □令和６年度準要保護児童生徒の認定について □校長・教頭の任免の内申について
R6. 3. 29 【臨時】	○教職員の人事異動について □北海道湧別高等学校存続対策事業実施要綱の一部を改正する要綱の制定について □湧別町教育支援委員会委員の委嘱について □湧別町学校運営協議会委員の解任及び任命について □湧別町学校給食センター運営委員の解嘱及び委嘱について □湧別町社会教育委員の解嘱について □湧別町部活動地域移行検討委員会委員の解嘱について □「湧別町の部活動の在り方に関する方針」の改定について □令和６年度湧別町立小学校、中学校及び義務教育学校の学級編制について □教育委員会所管職員の事務分掌異動について

(2) 教育委員会会議の項目別点検

湧別町教育委員会行政組織規則第6条の規定により、教育委員会会議での議決が必要である事項のうち、令和5年度において教育委員会会議にかけられた議案等を分類し、適切に付議されているかどうか点検を行いました。

項 目	件数
① 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。	7
② 教科用図書採択に関すること。	3
③ 法規たる性質を持つ教育委員会告示に関すること。	3
④ 学校教育及び社会教育に関する一般方針の定めに関すること。	1
⑤ 学級編成に関すること。	1
⑥ 道費負担教職員たる校長及び教頭の任免その他進退ついでの内申に関すること。	1
⑦ 歳入歳出予算の要求その他議会の議決を経るべき事項に関すること。	7
⑧ 奨学金に関すること。	1
⑨ 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。	3
⑩ 教育委員会の権限に属する事務の点検及び評価に関すること。	1
⑪ 法令又は条例に基づく委員等の任命（委嘱）に関すること。	15
⑫ 要保護及び準要保護児童生徒の認定に関すること。	6
⑬ 国際理解教育に関すること	1
⑭ その他異例又は重要な事項に関すること。	1
⑮ 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。	1
報告	18
協議	2
合 計	72

令和5年度に湧別町教育委員会会議に付議された案件のうち、多かったものとしては、「⑪法令又は条例に基づく委員等の任命（委嘱）に関すること」、次いで、「①教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。」、「⑦歳入歳出予算の要求その他議会の議決を経るべき事項に関すること」であります。

教育委員会会議の議案作成のため、議案審議の他に報告や協議を実施しています。

(3) 教育委員会会議以外の活動状況

令和5年度については、新型コロナウイルス感染症の影響による制限もほとんど無くなり、学校の各種行事などにも出席できる状況となりました。

教育委員会会議のほか、研修会、会議、学校訪問、入学式や卒業式などにも出席しております。

※教育長を除く

期 日	活 動 内 容	出席委員数
R5. 4. 3	教職員辞令交付式	4名
R5. 4. 6	ゆうべつ学園開校式	1名
	開盛小学校入学式	1名
	富美小学校入学式	1名
	上湧別中学校入学式	1名
	芭露学園入学式	1名
R5. 4. 15	ゆうべつ学園開校記念式典	3名
R5. 4. 17	遠軽地区教育委員会協議会理事会	1名
R5. 5. 8	遠軽地区教育委員会協議会総会・研修会	2名
R5. 5. 27	上湧別小学校運動会	2名
	中湧別小学校運動会	1名
R5. 5. 28	開盛小学校運動会	3名
	富美小学校運動会	3名
R5. 6. 10	芭露学園運動会	3名
R5. 7. 14	オホーツク管内教育委員会協議会総会	1名
R5. 7. 21-22	北海道市町村教育委員研修会	2名
R5. 10. 21	上湧別中学校学芸会、芭露学園学芸会	1名
R5. 10. 26	学校訪問（ゆうべつ学園、中湧別小学校、湧別高等学校、芭露学園）	3名
R5. 10. 29	上湧別小学校学芸会、富美小学校学芸会	2名
R5. 11. 5	中湧別小学校学芸会	1名
R5. 11. 22	学校訪問（開盛小学校、上湧別小学校、富美小学校、上湧別中学校）	3名
R5. 12. 1	オホーツク管内教育委員会協議会臨時総会	2名
	オホーツク管内市町村教育委員大会	2名
R6. 1. 7	20歳の集い	2名
R6. 1. 9	上湧別地区義務教育学校開校に係る地域説明会（富美地区住民センター）	2名
R6. 1. 10	上湧別地区義務教育学校開校に係る地域説明会	2名

期 日	活 動 内 容	出席委員数
	(開盛住民センター)	
R6. 1. 11	上湧別地区義務教育学校開校に係る地域説明会 (文化センターTOM)	1 名
R6. 1. 12	上湧別地区義務教育学校開校に係る地域説明会 (上湧別コミュニティセンター)	1 名
R6. 1. 18	総合教育会議	3 名
R6. 3. 15	ゆうべつ学園卒業式	1 名
	芭露学園卒業式	1 名
R6. 3. 21	上湧別小学校卒業式	1 名
R6. 3. 22	富美小学校卒業式	1 名

3 点検評価報告書

(1) 学校教育

No.	1	事業名	学校運営事業（小中一貫教育の推進）	担当課	教育総務課
執行方針	優れた教育環境を確保するため、町内全域で小中一貫教育の導入を進めており、本年度は湧別地区に本町2校目となる義務教育学校「ゆうべつ学園」を4月に開校させるとともに、前期課程用の屋内体育館を建設いたします。 また、上湧別地区については、4つの小学校と1つの中学校を廃止して施設一体型義務教育学校を令和7年4月に開校することといたしました。このため校舎は上湧別中学校を活用して整備することとし、本年度から2か年で増築校舎を建設し、既存校舎の改修工事を令和6年度に実施してまいります。				
事業内容	1 湧別地区義務教育学校の屋体増築工事、湧別小学校解体工事設計業務の実施 2 上湧別地区義務教育学校の校舎増築工事、外構工事設計業務の実施				
事業成果	1 令和5年4月に開校したゆうべつ学園の体育館増築工事を実施した。また、湧別小学校解体工事の設計業務を行った。開校にあわせ、湧別地区義務教育学校開設準備委員会主催による開校記念式典を開催した。 2 上湧別地区義務教育学校の開設に向け、校舎増築工事を実施した。また、外構工事の設計業務を実施した。				
課題	1 教育内容を充実させ、魅力ある学校教育を展開することが必要である。 2 開校に向け、通学方法や教育課程など統合に向けた準備を進める必要がある。				
改善方策	1 9年間の連続した教育課程を充実させ、小中一貫教育を推進する。 2 P T Aや学校運営協議会などで組織する開設準備委員会、さらに教職員で組織する開校準備委員会において、課題解決の方策を探る。				

No.	2	事業名	学校運営事業（学力向上の取り組み）	担当課	教育総務課
執行方針	全国学力・学習状況調査の結果が全国平均並みとなっており、これまで実施した湧別小学校を核とした「湧別町型学校力向上事業」の効果が表れております。 また、北海道大学大学院教育学研究院の支援により中学校での「学びの共同体」の授業スタイルによる学力向上を進めております。 本年度は、これらを全ての学校に普及させるため「湧別町学校力向上プラン」を作成し、これを各学校と連携することで、町内全体の学力向上を図ってまいります。				

事業内容	1 全国学力・学習状況調査における取組 2 放課後や長期休業を活用した補充学習や学力向上支援員活用の実施 3 湧別町型学校力向上事業の実施 4 教育アドバイザーによる学校訪問の実施 5 指導室と学校の連携による学力の向上 6 ICT 教育の推進 7 北海道大学との連携事業の実施 8 学校教育推進協議会における教職員研修の充実
事業成果	1 全国学力・学習状況調査における調査結果 学力の向上を図るため、指導方法の工夫・改善による取り組みを行ったこと等により、令和5年度の全国調査の結果では、小学校では国語で全国平均を上回った。中学校では国語・数学・理科の全ての教科で全国平均を下回る結果となった。 2 放課後や長期休業を活用した補充学習や学力向上支援員活用の実施 例年、夏・冬期休業期間に湧別高校生徒の協力により実施している、学習サポート事業「まなびいタイム」を実施した。学力向上支援員については、上湧別小学校と芭露学園、中湧別小学校の3校に3名を配置し、複式学級における授業支援の他、ティームティーチングや習熟度別指導を行う等、学力向上に向けた取り組みを継続した。この他、すべての学校で、北海道教育委員会が提供する「チャレンジテスト」を実施し学習内容の定着を図った。 3 湧別町型学校力向上事業の実施 令和2年度から実施している本事業について、昨年度に引き続き大妻女子大学の樺山教授を招き、ゆうべつ学園において講演会及び授業見学を実施した。各学校の教員等に対し、単元の作り方と評価について講演していただいた。 4 教育アドバイザーによる学校訪問の実施 毎月の定期的な学校訪問の他、必要に応じて随時、学校訪問や教育委員会への来所等により、校長・教頭先生に対する指導助言を行った。 5 指導室と学校の連携による学力の向上 毎月開かれる校長会議等の機会を通じ、各学校管理職に対し授業改善等に関する連絡・調整を図り、学力向上に向けた指導助言を行った。 6 ICT 教育の推進 各学校において、「GIGA スクール事業」により整備した児童生徒や教員用のタブレット端末等を活用し、学校における授業での活用や家庭に持ち帰っての活用等、効果的な取り組みとなるよう、様々な活用や研究を行った。 7 町内小中学校及び義務教育学校における主体的・対話的な深い学びを充実させるため、5月25～26日、7月10～11日、2月15～16日に北海道大学大学院教育学研究院教授 守屋淳氏を招き、上湧別中学校及びゆうべつ学園において研修会を実施し、中学校の授業改善の方向性や子どもの学びを如何に保証していくか等について学んだ。 8 学校教育推進協議会の総会において、町内教職員全員を対象に評価に関する講演会を実施し、教職員の資質向上に努めた。

課題	様々な学力向上施策や湧別町型学校力向上事業を行うことにより、全国学力・学習状況調査の結果では、小学校では国語で全国平均を上回った。一方、中学校では、すべての教科で全国平均を下回る結果となった。今後について、一定の成果が出ている小学校では、この結果を継続させていくことが必要である。中学校では、一部の学校においては昨年度同様、全教科で全国平均を上回る結果となっている学校もあり、基礎学力の習得や適切な学習課題の設定、主体的で探求心を伸ばすような授業づくりなど、授業等の指導方法を研究し改善する取り組みを継続する必要がある。
改善方策	各学校において、児童生徒の学力に応じた指導方法の工夫改善に努めるとともに、教育委員会、学校、家庭が一体となって学習習慣の定着に向けて取り組む。 全国調査の結果を踏まえて、各学校が「学力向上改善プラン」の見直しを行いながら学習指導を行うとともに、配置を必要とする学校に対しては学力向上支援員を配置し、きめ細やかな指導を行う。 湧別町型学校力向上事業の実施により、町内全ての学校の授業力向上・学力向上を推進することはもとより、各学校の学校組織力や人材育成を加えた取り組みを行う。 教育アドバイザーによる学校への指導助言を継続し、指導方法の改善方策の立案に対する支援を行うと共に指導室と学校の連携を密にしながら、学力向上に向けた取り組みを継続する。 各学校の管理職や教員等で組織する ICT 教育推進委員会において、各学校の ICT 教育に関する課題や効果的な指導方法等について検証し情報共有を図りながら、ICT 活用技能の向上を図る。 また、教職員の資質向上のためには、町全体で行う研修会や講演会を実施・充実させ、少しでも多くの教職員が参加して研鑽できるようにしていく必要がある。

No.	3	事業名	学校運営事業（ICT教育）	担当課	教育総務課
執行方針	令和3年度から利用開始したGIGAスクール・タブレットパソコンは、日常的に授業で活用しているほか、複式学級の授業での活用や他校とのオンライン授業、あるいは新型コロナウイルス感染症でのオンライン授業など、さまざまな場面で利用が進んでおります。 本年度は、各学校での利用実態を調査し、その中から特に学習効果が高い活用方法を町内の全学校で情報共有し、ICT機器の利活用を図ってまいります。				
事業内容	1 ICT 推進委員会の活性化 2 各学校のタブレット端末の活用状況の把握 3 研究推進校の活用方法の他校への普及 4 ICT 先進校への視察研修や講師招聘による研修会の実施				

事業成果	1 前年から ICT 推進委員会を教育委員会主導から教員主導に変え、より機動的な組織へと改編したことで、先進校視察や各推進委員同士での交流が活性化した。 2 アドバイザー訪問に合わせて ICT 推進委員会委員長が、各校のタブレット端末の活用状況を確認し、検索や書画カメラ、プレゼン以外の使い方を見て回ることで、着実に活用の機会が増加している。 3 複式学校同士で、タブレット端末を活用して複式学級を解消した授業の実践や、休み時間での交流などを行ったり、研究推進校の使い方を ICT 推進委員会で交流することで、各校の取組が進んでいる。 4 先進校への視察研修を通して、端末の使い方や活用の仕方について町内各学校へ普及させるとともに、講師を招聘して研修会を実施し、より使いやすいアプリや実践的な端末の使い方について研鑽を積むことができた。
課題	先進校は管内にもあるが、同じ端末を使っている先進校は管外であるためその学校へ行くための旅費の確保が難しい。また、タブレット端末の活用が進めば、今後デジタルドリルの活用が考えられ、そのライセンスのための費用が必要になってくる。さらに、Google のアカウントを児童生徒と教職員全員に付与することで、端末の使い方がさらに充実させることができる。
改善方策	各学校の活用状況を正確に把握し、ICT 推進委員会を中心に、各学校の特徴的な使用法や実践事例を普及させ、どの学校も同じように使っている状況を作り出す。また、同時により良い使い方について、ICT 推進委員会のメンバーを先進校に視察させ、その使い方の普及を目指していく。そのための予算について、確保していくようにする。また、デジタルドリルについても全学校の使用状況が同様になってきた段階で、ICT 推進委員会の中で協議し、ライセンス購入に向けた予算確保を目指していく。

No.	4	事業名	学校運営事業（安全・安心な学校づくり）	担当課	教育総務課
執行方針	新型コロナウイルス感染症の対策については、引き続き国の対応ガイドラインや衛生管理マニュアルに基づく対策をとりながら、学校行事等の平常化を進めます。また、オンライン授業やタブレット持ち帰りなど学びを止めない対策を行ってまいります。 登下校の安全確保については、「湧別町通学路交通安全プログラム」に基づき、地域や警察・道路管理者と連携して安全確保に努めてまいります。 本年度から法律改正により全ての自転車利用者を対象にヘルメット着用努力義務化となるため、ヘルメット購入補助金の対象者を中学生まで拡大し、児童生徒の安全確保を図ってまいります。				
事業内容	1 新型コロナウイルス感染症対策に係る各種取組み 2 通学路交通安全プログラムの改訂				

事業成果	1 新型コロナウイルス感染症対策として、町予算や国の学校保健特別対策事業等を活用し感染症対策用としての消耗品や備品の整備を行った。 2 通学路の安全について、合同点検の結果を対策必要箇所及び対策として追加し、プログラムを改訂した。また、その結果を町ホームページで公表した。
課題	1 新型コロナウイルス感染症対策については、継続した取り組みが必要となるため、今後も必要に応じ学校の要望等を確認の上、感染症対策用の消耗品や備品を整備する必要がある。 2 児童生徒の登下校における交通安全を確保することから、引き続き通学路の安全点検や必要な対策について協議していく必要がある。
改善方策	1 新型コロナウイルス感染症対策については、今後においても継続した取り組みが必要となるため、学校の要望等を確認の上、感染症対策用消耗品等について町単費で予算措置を行う他、国等の補助金等の活用についても検討を進めていく。 2 教育委員会事務局、各学校、地域関係者との連携及び情報の共有により、通学路の危険箇所の点検を継続する。各学校での交通安全教育を継続する。

No.	5	事業名	学校運営事業（豊かな心と健やかな体の育成）	担当課	教育総務課
執行方針	豊かな心を育むため、道徳授業や集団生活のルールを指導するとともに、運動の習慣化や規則正しい生活、スマートフォンやゲーム依存の防止なども指導することで、心と体が調和した優れた人格形成を図ってまいります。 いじめや不登校については、早期発見と素早い対応に努め、家庭や関係機関と連携して早期解決を図ってまいります。				
事業内容	1 学校の教育課程を通じた道徳教育の推進 （1）各学校における道徳教育の推進 （2）各教科・特別活動・総合的な学習等を通じた道徳教育の指導 2 全国体力・運動能力調査における取組 3 各学校で策定された学校いじめ防止基本方針に基づいた、いじめ等の問題行動の未然防止、早期発見、早期解消 4 教育アドバイザーによる指導助言や相談支援体制の強化・充実				
事業成果	1 学校の教育課程を通じた道徳教育の推進 （1）道徳の時間において、発達段階に応じた基本的な生活習慣、互いに協力し合う態度や集団における役割と責任等について指導した。 （2）保護者や地域住民の協力により、特別活動等の指導において道徳性を養った。 2 全国体力・運動能力調査における調査結果 体力の向上や課題の検証を図ること等を目的に、全小・中・義務教育学校の小学5年生と中学2（8）年生を対象に調査を行った。 小学校男子は4種目で、女子は6種目で全国平均を上回った。中学校男子は4種目で、女子では1種目で全国平均を上回る結果となった。 3 各学校で策定された学校いじめ防止基本方針に基づき、各学校において定期的				

事業成果	にアンケート調査等を実施し、いじめの把握に努め、早期発見、早期解消が図られた。 4 教育アドバイザーによる指導助言や相談支援体制の強化・充実 教育アドバイザーによる学校現場への指導助言や児童生徒、保護者との相談支援体制の強化・充実が図られた。
課題	道徳教育は、児童生徒が人間としての在り方を自覚し、人生をより良く生きるために、その基盤となる道徳性を育成するものであることから、教育活動全体を通じた指導を継続する必要がある。 全国体力・運動能力調査の結果、小学校及び中学校の男女とも、多くの種目で全国平均を上回る結果となった。一定の成果が出ている学校では、この結果を継続させていくことが必要である。 いじめは、人として絶対に許されないという認識のもと、児童生徒がいじめ等の問題行動を行わないよう継続した取り組みが必要である。 スマートフォン、携帯電話、パソコン・ゲーム機等を利用したインターネットによるいじめが全国的な問題となっているため、学校における児童生徒の利用実態を把握するとともに、インターネット利用の指導や、保護者への啓発を継続する必要がある。
改善方策	各学校における教育活動や特別の教科「道徳」等を活用しながら、道徳教育を充実させる取り組みを継続する。 いじめは人として絶対に許されない人権侵害であることを認識し、児童生徒が主体的にいじめについて考え、行動することができるよう指導を継続する。 いじめ等の問題行動の未然防止、早期発見、早期解消を図るため、いじめアンケート調査等による取り組みを継続する。 児童生徒によるインターネットの利用について指導するとともに、教職員や保護者に対し研修機会の充実を図る。

No.	6	事業名	学校運営事業（特別支援教育）	担当課	教育総務課
-----	---	-----	----------------	-----	-------

執行方針	支援を必要とする児童生徒個々に応じた支援を行うため、通級指導教室をゆうべつ学園に設置し、ここを拠点として他校へ教員が巡回して通級指導を実施いたします。 あわせて各学校に特別支援教育支援員を引き続き配置するとともに、関係機関との連携を図り適切な支援を提供してまいります。
事業内容	1 通級指導教室の実施 2 特別支援学級の設置 3 特別支援教育支援員の配置 4 校種間、こども園及び保育所と連携した推進体制の充実

事業成果	1 通級指導教室の実施 通級指導教室実施校であるゆうべつ学園に通級指導教員3名を加配措置し、自校・他校含め令和5年度末時点では7校で53名の児童・生徒に対し指導を行い、ことばの指導や学習・生活面における困り感の解消を図った。 2 特別支援学級の設置 関係機関と連携しながら就学相談や就学指導を実施し、教育支援委員会の開催により支援が必要な児童生徒を適切に把握し、支援が必要な児童生徒が在籍する学校に特別支援学級を設置した。 3 特別支援教育支援員の配置 必要に応じて小学校3校に7人の特別支援教育支援員を配置し、支援が必要な児童に対し支援を行った。 4 校種間、こども園及び保育所と連携した推進体制の充実 (1) 各学校で支援委員会等を開催し、特別な支援が必要な児童生徒について把握するとともに、支援内容等を検討し、教職員の共通理解のもと、特別支援教育を推進した。 (2) こども園・保育所・小学校による「園・保・小交流会議」を開催し、就学前幼児及び就学直後の子どもたちのより良い成長、発達のために関係機関との連携を深めた。 (3) 就学時には、保育所及びこども園と就学する小学校間、小学校から就学する中学校間において就学する児童生徒に関する引継ぎを行い、校種間の連携による適切な支援を行った。 (4) 北海道教育委員会が実施する特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業について4校の小・中・義務教育学校が活用し、各学校の特別支援教育コーディネーターや担任教員等が北海道立特別支援学校教員の助言等により、支援が必要な児童生徒に対する指導及び支援の充実が図られた。
課題	支援が必要な児童を就学前に把握し、児童の状況に対応した早期の支援を行うため、関係機関が連携して適切な就学指導を行う必要がある。 支援が必要な児童生徒に対し、特別支援学級への在籍や特別支援教育支援員を配置するほか、保護者への教育相談を充実する取り組みを継続する必要がある。 関係機関との連携による支援体制の整備に努め、支援が必要な児童生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援が必要である。
改善方策	関係機関と連携し、支援が必要な児童生徒の早期把握に努め適切な就学指導を行うとともに、必要とする学校に対しては特別支援教育支援員の配置を継続する。 学校と教育委員会事務局との情報共有、保護者への教育相談の充実に努める。 校種間、幼稚園及び保育所、福祉関係事業所等と連携し特別支援教育支援体制の充実に努める。

No.	7	事業名	部活動地域移行事業	担当課	社会教育課
執行方針	国が進める部活動の地域移行は、学校教育の一環として行われてきた中学校の部活動を社会教育として行う「地域クラブ活動」に移行するもので、少子化が進むなか将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保するものであります。 国のガイドラインでは本年度から3年間の改革推進期間中に、休日の部活動を地域移行することを目標にしておりますが、地域移行が難しい場合は、学校部活動を継続しつつ外部人材の導入による地域連携を進めることが求められております。 このため、本町の地域移行のありかたについて、本年度から検討を開始いたします。				
事業内容	1 部活動地域移行検討委員会の設立及び検討委員会の開催 2 部活動地域移行に関する講演会の開催				
事業成果	1 部活動地域移行検討委員会の設立及び検討委員会の開催 学校教育関係者、スポーツ・文化活動関係者、有識者で組織する検討委員会を設立し、部活動地域移行の背景と国及び道の動向やオホーツク管内における部活動地域移行の進捗状況、湧別町の部活動、スポーツ・文化活動の状況について共通認識を図ることができた。 2 部活動地域移行に関する講演会の開催 テーマ『部活動改革』笑顔あふれるまちづくり 講師 北海道部活動の在り方検討支援アドバイザー NPO法人幕別札幌内スポーツクラブ クラブコーディネーター 小田 新紀 氏 内容 子どもの地域でのスポーツ・文化活動における将来的な理想像や先進的な取り組み事例、地域移行における課題とその方策について講演された。検討委員会委員17名、学校教職員他14名				
課題	少子化により生徒数や教員数が減少する中で、学校単位ではチームが組めないことや部活動の減少により希望する部活動が選択できなくなっているため、子ども達が継続してスポーツ・文化活動に親しむことができる機会を確保する必要がある。 これまで学校教員が担ってきた部活動の指導を地域のスポーツ・文化団体などに担ってもらうことで、地域の活動に位置付けることが必要である。				
改善方策	部活動の地域移行について、児童生徒、保護者、教職員及びスポーツ・文化団体を対象としたアンケート調査を実施し、部活動に係る意識や実態、地域移行に対する考え方などを把握し、湧別町における今後の部活動の在り方及び地域移行に関する方向性を検討委員会で協議を進める。				

No.	8	事業名	中高一貫教育推進事業	担当課	教育総務課
執行方針	町内中学校・義務教育学校後期課程と湧別高校で行う中高一貫教育は「キャリア教育」を連携の柱として平成17年度から実施しております。しかし地元中学生の湧別高校への進学率が低く伸び悩んでおり、事業内容の見直しが必要となっております。 そのため中学生にとって魅力ある中高一貫教育としなければなりません。 このため、これまでのキャリア教育をベースとしながら、大学入試での総合型選抜の対応や社会人としての地域参画力の育成など新たな視点を加えるなど、本年度から中高一貫教育の見直しを行ってまいります。				
事業内容	1 湧別町教育委員会、北海道湧別高等学校、上湧別中学校、ゆうべつ学園、芭露学園による一貫教育の実施 (1) 教育課程・学習指導 (2) 特別活動・生徒指導 (3) S T Cプログラム 2 中高一貫教育推進会議運営費の補助 3 中高一貫教育の検証と今後に向けた検討				
事業成果	1 湧別町教育委員会、北海道湧別高等学校、上湧別中学校、ゆうべつ学園、芭露学園による一貫教育の実施 (1) 教育課程・学習指導部会 基礎学力テストに代わる取組として、「つなぎ学習」を実施した。連携入試合格者に対し事前問題集を郵送し、Z o o mにより遠隔指導を行った。 (2) 特別活動・生徒指導部会 吹奏楽部及びバレーボール部において、部活動クリニックを開催し、技術向上を目指しながら中高生の部活動における交流を図ることができた。 合同講演会は、作家の木村達也氏を講師として開催することができた。 (3) S T Cプログラムの実施 学年に応じて、自己の生き方・在り方を見つめ、6年間を通しての系統的なキャリア教育を行った。職業への興味関心やコミュニケーション能力を高め、職場体験の実施や自分の将来について考え語りにより、勤労観・職業観を育んだ。また、中学生に対して高校生が実体験などをスピーチすることにより、地域の歴史・諸課題・職業選択に関する知識を伝える力を育成した。 2 中高一貫教育推進会議運営費の補助 中・高の連携による教育活動に要する費用を助成し、資格の取得や講習会、講演会等の開催を推進した。 3 これまで、「S T C教育」を中心として事業を行ってきたが、令和6年度からは大きく内容を見直し、「①主体的・対話的な教科学習」と「②地域と連携した探究的活動」を柱として、事業を実施していくこととなった。				
課題	基礎基本の定着を図るため「つなぎ学習」の実施を継続する必要がある。 令和4年度から令和5年度に掛けて、中高一貫教育の取り組みの検証を行い、事業の見直しを行ったことから、新たな柱を基に事業を進めていく必要がある。				

改善 方 策	多くの場面において、中高生と一緒に活動できる場を増やし、交流を深めていく。引き続き、乗り入れ授業やつなぎ学習を実施し、学力の向上を目指す。 事務局会議、各部会会議を継続して開催し、新たな柱を基にした事業実施の協議を行う。
--------------	--

No.	9	事業名	北海道湧別高等学校存続対策事業	担当課	教育総務課
-----	---	-----	-----------------	-----	-------

執行 方 針	湧別高校の魅力化と入学者数の増加を図るため、「北海道湧別高等学校存続対策事業」を継続して実施してまいります。本年度は新たにソフトテニス部とeスポーツ部を設置するため、これに必要なテニスコート整備費用を支援するとともに、eスポーツ部の活動場所とするため文化センターTOMにゲーミングパソコンを設置いたします。 また、令和6年度から全国募集をするために必要な広報活動経費などに支援を行ってまいります。
事業 内 容	1 テニスコート改修事業、eスポーツ推進事業 2 各種補助事業 (1) 教科書等購入費補助事業 (2) 学力向上推進費補助事業 (3) 海外交流派遣費用補助事業 (4) 部活動振興費補助事業 (5) 部活動クリニック補助事業 (6) 部活動合宿遠征費補助事業 (7) 学校体育文化活動費補助事業 (8) 通学費補助事業 (9) 生徒会等事業補助事業 (10) 部活動交通費補助事業
事業 成 果	1 テニスコート改修事業、eスポーツ推進事業 令和5年度に新設されたソフトテニス部の練習環境を整備した。 (クレーコート2面、オムニコート1面下地整備) 文化センターTOMにゲーミングパソコン6セットを設置した。(企画財政課) 2 湧別高校の魅力のひとつとして町からの補助金は重要であり、保護者の負担軽減や学力向上、部活動の推進、また魅力的な事業を実施するため、引き続き支援を行っていくことは効果があると考えます。 (1) 教科書等購入費補助事業 在籍する生徒の保護者に対し、学校が指定する教科書及び副教材の購入費用を補助した(生徒103名)。 (2) 学力向上推進費補助事業 父母と教師の会が、在籍する生徒の学力向上のために学校が指定する模擬試験受験費用及び学力向上用教材購入助成に要した費用を補助した(模擬試験受験者延べ327名、学力向上教材:スタディサプリ40部・進路マップ30部、タブレット端末購入費iPad30台)。 (3) 海外交流派遣費用補助事業

事業成果	在籍する生徒が参加する海外交流派遣事業の費用を補助した（ニュージーランド相互交流派遣５名）。 （４）部活動振興費補助事業 体育文化後援会が、部活動の活動環境を整備するために用具等の購入費を助成した費用を補助した（ソフトテニス部）。 （５）部活動クリニック費補助事業 体育文化後援会が、部活動の資質向上のために部活動クリニック実施に要する費用を助成した。（吹奏楽局３回実施）。 （６）部活動合宿遠征費補助事業 体育文化後援会が、部活動の資質向上を図るため、北海道内（オホーツク管内を除く。）の高等学校との対外試合等を行うための合宿遠征に要する費用を補助した。（ラグビー部、吹奏楽局） （７）学校体育文化活動費補助事業 体育文化後援会が、湧別高校を代表する団体及び個人が参加する全道的な規模以上で開催される競技会等の参加費用を助成する場合の当該費用を補助した（ラグビー全道３回、女子ラグビー全国２回、吹奏楽局全道２回、吹奏楽局全国１回）。 （８）通学費補助事業 営業バス又はＪＲを利用して片道４kmを超えて通学する生徒の保護者に対して、通学のために購入した定期券、回数券、ＩＣカード購入費用を補助した（のべ生徒３０５名）。 （９）生徒会等事業補助事業 生徒会又はＰＴＡが実施する湧別高校の魅力向上に繋がる活動に補助した。（北大祭参加、学校祭打ち上げ花火、ＰＲ用記念品、学校案内、生徒募集用ポスター制作・バス広告、未来計画、地域みらい留学） （１０）部活動交通費補助事業 体育文化後援会が、全道的な規模未満で開催される競技会等に参加する部活動の交通手段として貸切りバス等を利用する費用を助成する場合の当該費用を補助した。（吹奏楽部）
課題	地域の高校の存続対策の推進を図るため、保護者の負担軽減及び湧別高校の魅力ある学校づくりに繋がる効果的な支援策を継続する必要がある。 数多くの事業や補助、成果、または湧別高校の魅力を中学生及びその保護者や地域住民へ継続して周知することが必要である。
改善方策	継続して支援を行う。 町内外の中学生に対して、継続的に事業・補助内容の周知を図る。 魅力的な学校づくりのための補助を行う。

No.	10	事業名	国際理解教育事業	担当課	教育総務課
執行方針	外国語教育については、英語検定資格の取得をめざす「英検チャレンジ事業」の対象学年を拡大して実施いたします。 また、友好都市であるニュージーランドのセルウィン町及びカナダのホワイトコート町と行っている中学生・高校生の交換留学事業と相互交流事業は、新型コロナウイルス感染症の影響で3年間中止としておりましたが、本年度はニュージーランドへの派遣を実施する予定であります。				
事業内容	1 英検チャレンジ事業 2 相互交流事業 3 外国語指導助手招聘事業 4 小学生英会話事業				
事業成果	1 英検チャレンジ事業 令和4年度から活用している「学園制加配」により、英語を通じた小・中一貫教育を推進し、町内すべての小・義務教育学校の1～6年生の希望する児童を対象に英検及び英検 Jr. を受検した。 【英検】※延べ人数 開盛小学校：5人（3級、5級） 富美小学校：1人（5級） 【英検ジュニア】 上湧別小学校：26人（GOLD4人、SILVER7人、BRONZE15人） 中湧別小学校：31人（GOLD14人、SILVER9人、BRONZE8人） 開盛小学校：6人（BRONZE6人） 富美小学校：10人（GOLD3人、SILVER4人、BRONZE3人） ゆうべつ学園：29人（GOLD6人、SILVER21人、BRONZE2人） 芭露学園：9人（GOLD2人、SILVER2人、BRONZE5人） 2 相互交流事業 派遣事業を実施し、ニュージーランドに中高生9名、一般1名、引率者3名を派遣した。事前・事後研修も含め、この派遣事業を通じて参加者の国際理解が深まった。 3 外国語指導助手招聘事業 自治体国際化協会を通じカナダからのALT2名、ダーフィールドハイスクールを通じプライベートのALT1名を任用し、町内全ての小・中・義務教育学校、湧別高等学校及び児童センターへ派遣した。 4 小学生英会話事業 小学生を対象とした英会話事業として「世界旅行に行こう」をテーマに事業を開催した。入国審査や銀行などを設けて英語で質問に答えたり、日本円をドルに換金して買い物をした。遊びの中で英語を使うような工夫をし、異文化に触れる機会を提供し、楽しんで英語を学んでもらうことができた。				
課題	1 英検チャレンジ事業 各学校において、一人でも多くの児童に英語に対する興味を持ってもらい、英検や英検ジュニアの受検児童の増に繋げると共に、検定に向けた練習問題の実施				

課題	等、受検対策等の実施が必要である。 2 相互交流事業 留学や派遣事業の参加者や受入れ家庭への国際理解を推進する効果は高いが、その成果や国際理解の必要性を町民に周知し続ける必要がある。 3 外国語指導助手招聘事業 外国語指導助手の活用の仕方、学校教員との連携を深めるため、打ち合わせの時間を確保する必要がある。巡回英語教諭との打ち合わせ方法や、各学校への派遣日程調整などが必要。 4 小学生英会話事業 より多くの児童が参加できるよう日程を調整し、英会話や異文化体験ができる機会を提供する必要がある。指導する湧別高校生を確保する必要がある。
	英検チャレンジ事業については、夏・冬休みに実施する「まなびいタイム」を活用し ALT による特別講習を行う等の取組を実施する。また、ALT や各学校の外国語担当教員と連携を図ることで、英語に興味を持つ児童を一人でも増やすとともに、受検（合格）者の確保に繋げていくこととする。 交換留学事業・相互交流事業については、参加者の体験等を広報紙・町ホームページに掲載するほか、各学校へ派遣活動をまとめたポスターの配布、各学校での報告会の開催等を依頼するなど、広報を続ける。また、相互交流事業参加者の報告会を一般公開しているが、より多くの町民の方に派遣の様子を見てもらえるよう周知を工夫する。 交換留学事業・相互交流事業の受け入れ家庭については、募集のポスターを公共施設に掲示したり、派遣事業参加者に協力を依頼するなどして確保に努める。また、生徒がいない家庭でも受け入れをしてもらえるように範囲を拡大していく。 外国語指導助手招聘事業については、継続して同人数のALTの招致が必要である。各学校への派遣や巡回英語教諭との連携については、巡回英語教諭の所属校である上湧別中学校に中心となってもらい、各小学校と連絡調整をする。また、外国語指導助手の勤務状況の評価を行うなど、効果的な派遣に努める。

No.	1 1	事業名	学校給食センター運営事業	担当課	教育総務課
執行方針	学校給食については、施設内の衛生管理を徹底し、地場産や北海道産の食材を優先的に使用した栄養バランスの優れた給食を提供してまいります。 また、食育については、食の大切さや食に関する正しい知識と食習慣を身に付けるための栄養教諭による指導を行ってまいります。 本年度の給食費については、賄材料費の高騰が続いておりますが、昨年同様に据え置きとし1食当たり小学生247円、中学生285円で提供してまいります。				
	1 おいしくて栄養バランスのとれた給食作りの実施 2 地元産食材の活用 3 栄養教諭による食に関する指導 4 食物アレルギー等を有する児童生徒への代替食等の対応 5 物価高騰に伴う子育て世帯への給食費負担軽減				

事業成果	1 おいしくて栄養バランスのとれた給食作りの実施 学校給食センター運営委員会、各学校の給食担当者会議、児童生徒教職員へのアンケート等で給食に対する意見を献立等の作成に活用した。残食調査を実施し、結果に基づき適切な分量の給食提供に活用した。 2 地元産食材の活用 地元産食材の購入に努め、道産米を使用した米飯、道産小麦を原料にしたパン、地場産品の鹿肉、ホタテから揚げを献立に取り入れた。地元生産者から寄贈された食材（ホタテ貝柱、玉葱、ホタテ稚貝）を活用した給食を提供した。 3 栄養教諭による食に関する指導 栄養教諭が小・中・義務教育学校を訪問し、給食時間に指導を行うほか、家庭科などの時間を活用し、食に関する教育を実施した。 4 食物アレルギー等を有する児童生徒への代替食等の対応 食物アレルギーを持つ児童生徒に対し、代替食の提供を行った。また代替食の提供ができない場合は給食費の減額による対応を行った。 5 物価高騰に伴う子育て世帯への給食費負担軽減 食料品価格の高騰による子育て世帯の負担を軽減するため、給食費を昨年度と同額に据え置きとした。
課題	調理場の衛生管理の徹底及び、安全安心な食材を確保する取り組みを継続する必要がある。給食に活用できる地元食材を確保する取り組みを継続する必要がある。残食調査等を通じて、適正な分量の給食を提供する取り組みを継続する必要がある。 学校給食を教材とした、栄養教諭による食に関する指導を継続する必要がある。アレルギーを持つ児童生徒の状況を学校生活管理指導表により把握し、適切な代替食を継続して提供する等の必要がある。 調理器具を始めとする給食センター施設の点検等を通じ計画的な更新を行う必要がある。 食料品価格の上昇分をすべて給食費に転嫁せず、子育て世帯の負担軽減を継続する必要がある。
改善方策	調理委託業者への指導、賄い材料納入業者の選定等を通じて、安心安全な食材確保に努める。 施設内の衛生管理を徹底し、安全な給食の提供に努める。 学校給食センター運営委員会等の意見を取り入れた献立の改善に努める。 地元産食材の購入を継続し、献立への活用に努める。 残食調査等を通じて、適正な分量の給食を提供する取り組みを継続する。 栄養教諭による食に関する教育の研究推進に努める。 食物アレルギー等を持つ児童生徒の状況についての適切な把握を継続する。 給食センター施設の点検を継続し、計画的な更新を継続する。 給食費の上昇を抑制し、負担軽減を継続する。

(2) 社会教育

No.	1	事業名	社会教育振興事業（家庭教育）	担当課	社会教育課
執行方針	家庭教育については、すべての教育の原点であり、子どもたちの健やかな成長を育む基礎となるものでありますが、近年、核家族化や地域でのつながりの希薄化等を背景とした家庭教育における様々な課題が指摘されております。 このため、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が孤立してしまうことのないよう、親子で気軽に集い、交流を図る機会として従来の家庭教育研修会の実施方法を見直すとともに、子育て世代包括支援センターと連携を密にし、情報提供や相談体制の充実を図ってまいります。				
事業内容	1 家庭教育研修会の開催 2 健康こども課との事業協力 3 家庭教育相談の実施 4 生涯学習振興奨励事業補助金の活用				
事業成果	1 家庭教育研修会の開催 テーマ 『子どもたちの健やかな成長を願って』 講習会①「子どもの食事・栄養と発育」 講師 置戸町食のアドバイザー 佐々木十美氏 内容 人気の給食メニューや、安心・安全の食材を使ったおいしい食事作りのコツなど、食育の観点から子どもたちの健全育成についてのお話をしていただいた。また、簡単な実習を行い、参加者同士の交流を図ることができた。14名参加。 2 教育アドバイザー、子育て世代包括支援センター等による連絡会議を行い、家庭教育支援と子育て支援の連携強化が図られた。 3 家庭教育相談の実施 教育アドバイザーにより随時教育相談に対応した。 4 生涯学習振興奨励費補助金の活用による母親サークル等による活動支援実績なし。				
課題	地域としてゆるやかに支えあう家庭教育支援が、家庭の教育力を向上させ、引きこもりや不登校、社会格差、虐待など複雑かつ深刻化する問題を未然に防ぐ効果があることを広く啓発する必要がある。 集団で活動する機会が減少し、孤立しがちな子育て世代を支援するため、ボランティアを育成する必要がある。 一方で、現代社会において、地域による教育力向上には限界もあるため、行政機関の連携により課題の把握と適切な支援を図る必要がある。				
改善方針	保護者を取り巻く環境の変化への理解や家庭教育支援の必要性の理解を深める研修事業を充実する。 家庭教育への意識を高める学習活動を支援する。 母親サークル等の育成と支援を充実させ、交流機会を拡充する。 子育て世代包括支援センターや図書館など関係機関との連絡体制をつくり、連携を図る。				

No.	2	事業名	社会教育振興事業（青少年教育）	担当課	社会教育課
執行方針	青少年教育については、小学校高学年を対象とした「湧ゆう湧くわく体験塾」や「児童宿泊研修会」で、地域の人材を活用しながら、自然体験やスポーツ体験、ボランティア活動などを行い、豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を高めながら成長を促す取り組みを推進してまいります。 また、少子化に伴い、子ども会の活動が年々少なくなっていることから、全町的な子ども会事業を実施する青少年指導センターを支援することで、地域子ども会事業を補完するとともに、中高生リーダーの養成にも努めてまいります。 青年団体協議会は全町的な青年組織であります。が、会員不足などの課題も抱えておりますので、職種を超えた仲間づくりや、地域の青年組織の結びつきを深める自主的な取り組みに対して支援してまいります。				
事業内容	1 各種体験活動の実施 2 地域子ども会・青少年指導センターへの活動支援 3 小学生・中学生リーダー養成や成人指導者の活用 4 青年団体協議会の育成・援助の実施				
事業成果	1 各種体験活動の実施 各種団体との連携により体験事業を実施し、集団生活体験の場を提供した。 （１）児童宿泊研修会 全町の小学５年生を対象 ５３名参加 （２）子ども会リーダー研修会（夏季・冬季） 小学生延２８名、中高生リーダー延５名、成人指導者延１０名 （３）湧別町・新篠津村友好都市交流事業 湧別町９名、新篠津村８名の児童及び中・高校生ボランティア２名が参加 （４）新春交歓カルタ大会及び百人一首教室 延べ９９名参加 年間１０回実施 （５）湧ゆう湧くわく体験塾 ２８名参加 年間１２回実施 2 地域子ども会・青少年指導センターへの活動支援 地域子ども会の活性化を図るべく、地域青少年指導センター（地域子ども会連合組織）の事務局運営を支援した。 3 小学生・中学生リーダー養成や成人指導者の活用 １の各種体験活動及び青少年指導センター主催事業を通じて、小学生リーダー研修、中学生リーダー研修事業を実施した。 湧ゆう湧くわく体験塾の活動にあたっては、町内の成人指導者を講師として活用し地域教育力の向上を図った。 4 青年団体協議会の育成・援助の実施 チューリップフェアや屯田七夕まつりにおいてイベントを開催するなど、少人数ながら、地域での活動を精力的に実施した。また、１月から３月に行われたニューススポーツ de あそびに参加し、異業種間の交流が図られた。会員数１５名				
課題	自然体験や対人での体を使った遊びの機会が減少しているため、体験活動の提供やコミュニケーション能力の養成が必要。 地域に愛着と誇りを持ったリーダー・指導者を小学生から高校生・青年まで一貫して育成する必要がある。				

改善 方 策	地域の特性を生かした体験学習活動の機会を提供し、豊かな人間性の養成を図る。 異世代や異年齢との交流機会の拡充により、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、地域教育力の向上を図る。 小学生や中学生のリーダー養成及び、地域の成人指導者の活用を図る。 小学生～中学生～高校生～青年が一貫して活動できるような事業展開を図る。 青少年指導センターや児童センターなど関係機関との連携を図る。
--------------	---

No.	3	事業名	社会教育振興事業（成人教育）	担当課	社会教育課
-----	---	-----	----------------	-----	-------

執行 方 針	成人教育については、成人期は、家庭はもちろんのこと、地域や職場、サークルなどで中心的な役割や責任を担うとともに求められる時期でもあります。そのため学習領域も生活や職業上に加え、福祉や健康、地域活動など多岐にわたります。 このことから、「町民大学」や「ふるさと講座」などを開催している社会教育関係団体への支援のほか、生涯学習振興奨励事業補助金により、自ら企画実施する自主事業を支援するとともに、町民の学習機会の充実に努めてまいります。
事業 内 容	1 湧別町民大学の開催支援 2 地域住民が主体的に組織的に学習活動を継続するための支援 3 P T A団体への助成 4 生涯学習振興奨励事業補助金の活用
事業 成 果	1 湧別町民大学の開催支援 町民有志で構成する実行委員会により、各ジャンルの講師を招き、町民に対し今日的課題や地域課題等の解決に向けた学習機会を提供した。 5回開催、延356名参加 2 地域住民が主体的に組織的に学習活動を継続するための支援 「ふるさとから学ぶ会」との共催により郷土学講座を開催。 第11回我がまち湧別町のお宝をたずねる旅 35名参加 第13回ふるさと講座「畑地灌水・リールマシン」の開催。47名参加 3 P T A団体への助成 補助により、研修会に参加するなど学習活動が行われた。 4 生涯学習振興奨励事業補助の活用 ゆうべつアウトドアクラブ YU-PAL、伍喜愛の愛、みんなで子育て実行委員会の自主事業グループ3団体に対し補助を行った。
課 題	湧別町の歴史、産業、自然等を学ぶ機会を提供する必要がある。 時間的余裕のない成人期のニーズや、退職後の世代の多様なニーズに応えられるよう、情報提供も含め参加し活躍する場を創出する必要がある。 世代間交流、異業種間交流を推進し、まちづくりの人材育成を図るため、企画等、町の他部局との情報共有も含めた連携強化が必要。 学習を支援するコーディネーターを育成する必要がある。

改善 方 策	「ふるさと講座」は、町域単位での郷土学の機会提供のみならず、小さな地域における指導者の養成と活動の広がりをもつ場として支援する。 「町民大学」は、来場者数を目標とするだけでなく、参加者（団体）や実行委員と講師とのつながりをより深めるなど、人材育成の側面も意識した事業展開や職域を巻き込んだ事業展開を奨励する。 幅広い学習ニーズに応える学習機会の提供と学習意欲を喚起する。お互いの仕事や暮らしを知り、地域を知ることにつながる学習活動を支援する。自主的に企画し実践するサークルなどの活動支援を充実する。気楽に参加し、進んで活動できるよう情報の提供に努める。
--------------	---

No.	4	事業名	社会教育振興事業（高齢者教育）	担当課	社会教育課
執行 方 針	高齢者教育については、令和4年度から実施している活動意欲の高いアクティブシニアをターゲットにした3か月ごとの短期学習事業の拡充を図るとともに、「チューリップ生きがい大学」での学習と交流機会の提供を継続し、高齢者の学びを支え、生きがいのある充実した生活につなげていただけるよう支援してまいります。				
事業 内 容	1 チューリップ生きがい大学の開設 2 世代間交流事業の実施 3 アクティブシニア向け事業の実施				
事業 成 果	1 チューリップ生きがい大学の開設 108名入級 集会等11回開催 講演会、レクリエーション等の開催及び学生の主体的な取り組みとしてのクラブ活動への支援により、高齢者の学習機会及び活動機会を提供した。 2 世代間交流事業の実施 ゆうべつ学園へ訪問し、学校施設見学や現在の ICT 教育などに触れることにより世代間交流の機会を提供した。 3 アクティブシニア向け（おおむね60歳以上）事業の実施 自分の興味のあるジャンルについて3ヵ月単位で学ぶ「学びすとカレッジ」を開催。全7講座 延54名 高齢者のスマートフォン所有率が高くなってきているため、スマートフォン教室を開催した。9名参加				
課題	「高齢者学級」では、主体的な取り組みに対し継続支援が必要。高齢者が持つ知識や経験、技能を地域や次世代に伝える機会を提供し、生きがいを持てるようにする必要がある。 家にこもりがちな高齢者に、地域の身近な情報を提供するとともに、より参加しやすい少人数でのグループ活動などの場を創出する必要がある。 アクティブシニアに対する学習機会を確保し、活躍の場を提供する必要がある。				

改善 方 策	高齢者の興味関心を呼び起こす事業を創設する。 高齢者学級の参加者による自主活動の促進と充実を図る。 次の世代に伝承する異世代間交流事業を充実する。 知識や知恵を持つ高齢者を把握し、活かすようコーディネートを充実する。 少人数でも気楽に参加しやすい環境づくりに努める。 高齢者学級と他団体との連携を図る。
--------------	---

No.	5	事業名	社会教育施設	担当課	社会教育課
-----	---	-----	--------	-----	-------

執行 方 針	社会教育施設については、生涯学習活動の拠点となる施設でありますので、指定管理者と連携を密にしながら、町民が気持ちよく利用できる施設の管理運営に努めるとともに、安心安全に利用できるよう計画的な整備を図ってまいります。 文化センターTOMでは、木材を活用したオリジナルのテーブルやパーテーション、椅子等を製作・設置することで、木のもつ優しさ温かみを最大限に生かし、町民が気軽に集い、楽しく過ごせるよう、憩いのスペースとして整備してまいります。 文化センターさざ波では、大ホールの舞台吊物装置について、老朽化に伴う故障や事故を未然に防ぐため、計画的な改修整備を実施いたします。 五鹿山スキー場では、オホーツクコース沿いの樹木の一部を伐採し、ゲレンデを拡幅することで、利用者の安全を確保し、利便性を図ってまいります。
事業 内 容	1 社会教育施設の整備充実
事業 成 果	1 社会教育施設の整備充実 町民のニーズを踏まえ利用しやすい管理運営や定期的な保守点検・修繕等を通じて適正な維持管理を行った。 (1) ロビー木質化工事（文化センターTOM） 文化センターTOM 木質化工事を実施することにより、町民の気軽に集えるスペースの確保ができ、利用者の利便性向上が図られた。 (2) 個室型ベビーケアルーム購入（文化センターTOM） 個室型ベビーケアルームを購入することにより、利用者の利便性向上に繋がり、文化センターTOM 利用者の増加を図ることができた。 (3) 舞台吊物装置改修工事（文化センターさざ波） 文化センターさざ波舞台吊物工事を実施したことにより、舞台吊物装置の安全な使用ができるようになり、利用者の安全を確保することができた。 (7期計画中2期目) (4) 照明LED工事（湧別屋内ゲートボール場） 水銀灯からより明るいLED照明に更新したことにより、経費の節減とともに、利用者の利便性の向上が図られた。 (5) ゲレンデ拡幅工事（五鹿山スキー場） ゲレンデ拡幅工事を実施することにより、コース幅が広くなり、安全に使用ができ、利用者の利便性向上が図られた。

事業成果	(6) リフト設備改修工事（五鹿山スキー場） リフト設備改修工事を実施することにより、安全に使用ができるようになり、利用者の安全を確保することができた。
課題	社会教育施設の適正な維持管理や計画的な整備の充実に努める必要がある。
改善方策	文化センターさざ波・TOMの両館の特徴を活かした有効活用に努める。 町民のニーズを踏まえながら、利用しやすい社会教育施設の計画的な設備の更新や改修等と適正な管理運営、利用実態に即した開館を目指す。

No.	6	事業名	スポーツ活動振興事業	担当課	社会教育課
-----	---	-----	------------	-----	-------

執行方針	心身ともに健康な生活を営むためには、生涯にわたって誰もが体力や年齢に応じてスポーツや運動に親しむことが大切であります。 本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で3年間中止を余儀なくされた「サロマ湖100kmウルトラマラソン」や「上野カップ少年少女柔道大会」などのスポーツ大会のほか、住民参加型イベント「チャレンジデー」を開催し、町民の健康増進や生涯スポーツの推進に努めてまいります。 体育協会をはじめスポーツ少年団などの団体育成につきましては、「五鹿山マラソン大会」や「町民スケート大会」など活動の支援を図るとともに、スポーツ指導者の育成に努めてまいります。 また、体育館を活用して利用者個人に合ったトレーニング指導や運動教室を通じて、気軽に運動に親しむきっかけづくりに努め、町民の体力づくり、健康づくりの推進に努めてまいります。 さらに、各種団体活動や少年団活動において優秀な成績を収め、全道大会などへ出場する際の支援について、継続的に実施してまいります。
事業内容	1 大会の開催 2 スポーツ教室・講習会の開催 3 スポーツ推進委員事業の開催 4 スポーツ団体活動の育成援助 5 湧別町立学校施設の開放事業
事業成果	1 大会の開催 (1) 第48回自治会対抗町民300歳バレーボール大会 7チーム 90名参加 中湧別総合体育館で実施。 (2) 第38回サロマ湖100kmウルトラマラソン 新型コロナウイルス感染症の影響により4年ぶりに大会を実施した。 100kmの部 参加者2,987名、完走者1,930名、完走率64.6% 50kmの部 参加者455名、完走者363名、完走率79.8% (3) 湧別町少年柔道大会「湧別町少年柔道大会～上野カップ2023～」 小・中学生の全道規模の柔道大会を開催し、上野三姉妹と三井住友海上女子柔道部の舟久保遥香選手から直接、選手への指導や激励を行ったことによ

事業成果	り、次世代のオリンピックを目指す子ども達の意識の高揚が図られた。 33団体 321名（内町内参加者1名） (4) チャレンジデー2023 住民参加型のイベント「チャレンジデー」に参加し、町民の健康づくりや体力づくり、スポーツやレクリエーション活動への参加意欲の高揚と習慣化を推進することができた。全国で67自治体、1,080,566名が参加。町内参加者4,083名、人口8,096名、完走率50.4%（銀メダル） 2 スポーツ教室・講習会の開催 (1) かけっこ教室、スポーツチャレンジ教室、ジュニアスイミングスクール、クロスカントリースキー教室、ジュニアスケート教室などを実施し、町民がスポーツに親しむ機会の提供と技術向上に資することができた。 (2) フィットネススクール・トレーニングスクール 湧別総合体育館においてフィットネス・トレーニングスクール参加者やトレーニング室の利用者に対し、運動指導や個別相談を実施し、町民の健康や体力づくりの増進に努めた。 3 スポーツ推進委員事業の開催 スポーツ推進委員が研修を通じて資質向上を図り、町内小学1年生から3年生を対象に5月から翌年3月まで毎月1回開催している「チャレンジスポーツスクール」において、様々なスポーツを体験する機会を提供した。 4 スポーツ団体活動の育成援助 スポーツ少年団、体育協会への運営費助成を行うことにより、町内における自主的なスポーツ活動の推進を支援した。 体育協会主催の「五鹿山マラソン2023」では、オホーツク管内より92名の参加があり、町民の体力増進や健康づくりを高めるきっかけづくりを図ることができた。 スポーツ・文化合宿誘致事業では、2件23名を受け入れた。 スポーツ・文化遠征費補助事業では、団体や個人に対して全道・全国大会への遠征の経費の一部を助成することにより、町内のスポーツの振興を推進した。 5 湧別町立学校施設の開放事業 湧別町立学校施設の開放事業は、3団体13日間の利用があった。
課題	スポーツニーズが多様化している一方、少子高齢化によるスポーツ団体の会員不足や子ども達の体力の低下、スポーツ離れ、指導者不足などを解消する方策を検討する必要がある。 各年齢に応じたスポーツ習慣が形成されるよう、だれもがいつでもスポーツに親しむ機会を提供する必要がある。 指導者の発掘・養成や体育協会・スポーツ少年団などの関係団体の支援体制の充実に努める必要がある。

改善 方 策	ライフステージに応じた各種教室、講習会、大会などスポーツに親しむ機会を提供し、健康や体力づくりの増進と住民相互の交流の推進に努める。 多種多様なスポーツニーズに対応するため、ニュースポーツの研究・普及に努める。 体育協会やスポーツ少年団など関係団体の育成と自主的な活動支援に努める。 町民のスポーツ活動を推進する指導者の育成や養成を図り、指導体制の充実に努める。 著名な外部講師等の招聘により、技術向上の習得に努める。 スポーツ推進委員の連携強化を図り、町民のスポーツの推進や健康増進に努める。 運動指導職員による町民の体力に応じた運動プログラムの提供に努める。 体育協会やスポーツ少年団、自治会、関係団体等の連携を図り、町民みんなで楽しめる生涯スポーツの推進に努める。
--------------	---

No.	7	事業名	芸術文化活動振興事業	担当課	社会教育課
-----	---	-----	------------	-----	-------

執行 方 針	芸術文化は、人の感性を豊かにし、日々の生活に潤いをもたらすとともに、地域や町民の連帯感を深めるうえで大きな役割を果たすものであります。 本年度においても、子どもから大人まで幅広い年代に対して優れた芸術文化に触れる機会を提供するとともに、「良いもの見よう聞こう会」などの町民有志団体により、芸術性だけでなく娯楽性に富んだ芸術鑑賞会を企画実施いただいておりますので、今後もこれらの団体の支援に努めてまいります。 また、本年度から取り組む「eスポーツ」について、文化センターTOM内に設置する専用機器を活用して小中学生向けのeスポーツ講座を開催し、新しい生活文化に接する機会を提供してまいります。 また、文化連盟をはじめとする文化サークルの活動を継続的に支援し、豊かな人間性を育む芸術文化の普及振興に努めてまいります。
事業 内 容	1 文化団体活動の育成・支援 2 各世代のニーズに合った鑑賞機会の提供 3 学習の成果を活かす場としての発表機会の提供 4 体験事業及び文化活動に親しむ教室の開催
事業 成 果	1 文化団体活動の育成・支援 文化連盟及び芸術鑑賞企画団体の事業費を補助し、自主的活動推進を支援した。 2 各世代のニーズに合った鑑賞機会の提供 幼児から一般向けの鑑賞機会の提供では、芸術鑑賞企画団体主催を含め、多様な事業を実施し、多くの町民が芸術文化に触れる機会を提供した。 3 学習の成果を活かす場としての発表機会の提供 文化連盟が実施する総合文化祭での展示発表、芸能発表を支援した。また、文化センターさざ波ギャラリー及び文化センターTOMにおいて、文化連盟加盟団体や町民個人等の作品展示を実施し、町民の主体的な文化活動を支援した。 4 体験事業及び文化活動に親しむ教室の開催 小学生向けに2講座（木工教室、eスポーツ教室）、親子向けに1講座（DIY教室）、一般向けに1講座（ソープフラワーBOXワークショップ）を実施し、文化

事業成果	活動の体験機会を提供した。また、小学生向けに実施した子どもアート体験事業については、子ども演劇ワークショップを開催し、コミュニケーション力や論理的思考力が身につく、発想力、想像力が養えた。7名参加 心の糧となる芸術・文化活動は、一般はもとより、これからを担う青少年の創造的な能力を伸ばすためにも、大きな役割を果たすものとして充実していく必要がある。
課題	鑑賞と創造が両輪となった芸術・文化活動を推進するためにも、芸術文化にふれる機会を提供する必要がある。
改善方策	町民ニーズをふまえた上で、質の高い芸術文化作品の鑑賞機会の提供に努める。 青少年が芸術文化に触れる機会の拡充に努める。 カルチャー教室、各種体験事業、ワークショップなどの実施により、芸術・文化に親しむ機会の提供に努める。 文化連盟を始め、各種文化団体の活動を支援する。 芸術文化奨励事業補助等制度の活用促進に努める。 学習の成果を活かす場として、町民ギャラリーや総合文化祭等の活用に努める。 芸術・文化事業の情報提供に努める。 道や他市町村、北海道文化財団等の関係機関との連携を図る。 文化連盟、芸術鑑賞団体、各種文化団体と連携し、芸術文化の振興に努める。

No.	8	事業名	博物館・文化財保護活動	担当課	社会教育課
執行方針	ふるさと館 J R Y・郷土館については、収蔵資料の整理を進め、適正な保存に努めてまいります。 また、本年度も学校教育との連携による体験型学習プログラムの提供や展示などを継続し、町民が歴史文化に触れる機会を提供してまいります。 文化財については、遺跡を保護し、次世代に伝えていく必要があります。 平成30年度より実施している北海道指定史跡「シブノツナイ堅穴住居跡」の発掘調査を継続し、専門家による調査検討委員会の開催、出土資料の科学分析などを行い、遺跡の範囲や年代などについて確認してまいります。				
事業内容	1 文化財保護の実施 (1) 埋蔵文化財の保護 (2) 自然関連文化財の保護 2 博物館資料の整理・保管・展示・収集の実施 3 博物館調査研究の実施 4 博物館教育の実施 (1) 研修・学校授業の実施 (2) 博物館講座の実施				
事業成果	1 文化財保護の実施 (1) 埋蔵文化財調査 道指定ながら詳細が不明である「シブノツナイ堅穴住居跡」の調査のため、町主体の発掘調査・科学分析を実施し、情報の収集を行った。 開発行為に伴う埋蔵文化財の保護活動として、開発事業者との事前協議等を実				

事業成果	施した。 (2) 自然関連文化財の保護 アッケシソウ群落は経過観察として写真記録を実施した。 2 博物館資料収集・整理・保管・展示の実施 収蔵庫の管理と保管資料の状況確認、郷土史理解のために重要な資料の選別と整理、資料寄贈への対応等を行った。 ・シブノツナイ竪穴住居群出土資料の整理を行った。 ・旧芭露小学校体育館の収蔵の準備作業を行った。 ・シブノツナイ竪穴住居群調査速報展を実施した。 ・文化庁主催「発掘された日本列島 2023」に湧別シブノツナイ竪穴住居跡とその発掘に関する情報を提供。山梨県：9/17～10/29、長崎県対馬：11/11～1/8、奈良県：1/20～2/11 3 博物館調査研究の実施 ・紋別市「環オホーツク文化のつどい」にて、シブノツナイ竪穴住居群について発表した。 ・遠軽地区教頭会 研修会において講演を行った。 ・新赴任教員用資料更新増補を行った。(遺跡のミカタ、湧別町の過去と現代) 4 博物館教育の実施 (1) 研修・学校事業の実施 博物館が持つ過去の生活情報の内、日常生活に活用できるものを体験学習化し、町内学校の授業及び各種研修会に歴史学習の機会を提供した。 学芸員による出張授業を実施した。 (2) 遺跡調査報告会の実施 令和5年度 発掘調査成果報告会 参加40名
課題	埋蔵文化財では町内に所在が確認されている埋蔵地が57ヵ所あり、自然文化財では北海道指定文化財のアッケシソウ群落がある。これらの文化財を次世代に確実に渡すための方策を立案・実行する必要がある。 郷土の歴史資料は、安定的な保管方法を確立する必要がある。また、それらの公開方法も検討する必要がある。 教育活動においては効果的な展示方法及び学習効果の高い普及活動を研究し実施する必要がある。
改善方策	1 文化財保護の実施 次世代へとつなぐために埋蔵文化財の保護環境の整備に努める。 アッケシソウ群落の保護のため、塩生植物の経過観察に努める。 2 博物館資料収集・整理・保管・展示の実施 収蔵している石器、土器類の分類整理を進め、湧別地区の先史文化の調査研究を行う。 郷土館において、先史の展示の充実に努める。 収蔵資料の系統的分類整理を進め活用に備える。 資料の長期的、安定的保存のために保存環境を整える。 収蔵資料の安定的確保のために常設展示での収蔵展示を進める。

改善 方 策	次世代を担う子どもたちに理解しやすい展示づくりを行う。
	3 博物館調査研究の実施 埋蔵文化財保護活動を充実させるため、町内遺跡に関する調査研究を進める。 日常生活への応用が可能な資料に関する調査研究を進めて、展示・教育普及活動へ活用する。 学会や研修会への参加など、学芸員の専門性・教育力を高めるための機会を拡充する。 4 博物館教育の実施 文化財（埋蔵文化財・記念物）を知る機会提供に努める。 博物館学習の内容充実に努める。 出張学習の内容充実に努める。 広報を活用し、博物館活動の周知に努める。

No.	9	事業名	図書館活動振興事業	担当課	社会教育課
執行 方 針	図書館については、学習活動の重要な拠点であります。そのため、本の購入、展示、質問への対応などの図書館機能の充実に努めてまいります。 子どもの読書活動を推進する取り組みをまとめた計画である「子どもの読書活動推進計画」は本年度から第2次計画がはじまります。この計画に基づき、ブックスタート事業、学校図書支援、移動図書館車運行、さらには各ボランティアとの協働による読み聞かせ会などの読書機会の提供を行い、読書普及活動の推進に努めてまいります。				
事業 内 容	1 図書館資料の収集、整理、保存、利用者への読書案内、及び図書等の貸し出しの実施 2 各種事業の実施 3 各種機関、団体との連携、協力				
事業 成 果	1 図書館資料の収集、整理、保存及び図書等の貸し出しの実施 図書館資料の収集選定方針及び除籍基準により、蔵書管理を行い、町民の読書要求に応え、貸出や情報提供を実施した。 蔵書冊数 147,309冊（中湧別77,891冊、湧別69,418冊） 貸出冊数 54,104冊（図書53,632冊、視聴覚 472点） 2 各種事業の実施 ブックスタート関連事業、特別展示の開催や、郷土資料のデジタル化を行い読書に親しむ機会を提供した。9月から中湧別図書館「読み聞かせ会」を開始した。 3 各種機関、団体との連携、協力 学校図書館用図書の選定協力や、蔵書管理を補助し、児童生徒の読書推進活動を行った。リーディング倶楽部たんぽぽが文部科学大臣表彰を受けた。				
課 題	あらためて読書の重要性が見直され、読書活動を支える社会基盤として「図書館が果たす役割」が重視されている。				

改善 方 策	町民の読書傾向をふまえ、中湧別図書館と湧別図書館を特徴付けた選書を行い、新鮮な図書を購入する。 中湧別・湧別２館それぞれが持つ特徴を活かした展示等を行う。 ネットワークを活用した読書環境を整備する。 郷土資料のデジタル化を行い、インターネットで公開する。 適切な移動図書館車運行を実施し、町内全域に向けて読書活動を推進する。 学校をはじめとする教育施設や保育・福祉施設との連携を図る。 子どもの読書活動推進計画により、子どもたちの読書環境を整備する。 図書館ボランティアとの連携強化に努める。
--------------	--

4 事業実績表

(1) 令和5年度学校教育事業の実績表

事業名	事業内容等	実績等
教育委員会事務局事業	教育アドバイザーの配置 特別支援教育支援員の配置 中高一貫教育推進事業 湧別高校存続対策事業 教職員健康診断事業 学校運営協議会	教育アドバイザーを2人配置した。 特別支援教育支援員は、上湧別小学校1人、中湧別小学校2人、湧別小学校4人を配置した。 中高一貫教育については、湧別高校と町内1中学校と2義務教育学校の連携による教育活動を推進し、中高一貫教育推進会議に運営費1,801千円を助成した。 湧別高校存続対策事業については、教科書等購入費補助事業1,615千円、学力向上推進費補助事業6,031千円、海外交流派遣費用補助事業2,149千円、部活動振興費補助事業351千円、部活動クリニック費補助事業95千円、部活動合宿遠征費補助事業607千円、学校体育文化活動費補助事業3,661千円、通学費補助事業8,166千円、生徒会補助事業1,120千円、部活動交通費補助事業30千円を助成した。 教職員健康診断事業については、人間ドック受診者に係る費用を負担したほか、79人の教職員を対象に健康診断を実施した。 学校運営協議会は全ての学校に設置されており、計23回の会議を開催し、延べ179名の委員が出席した。
教職員住宅整備事業	住宅営繕の実施	教員住宅の維持管理を実施した。
外国語指導助手招へい事業	JETプログラムによりカナダから2名任用、プライベートでニュージーランドからフィニールドハイスクールを通じて1名任用し、通年3名体制で各学校へ派遣	各小・中・義務教育学校及び湧別高校へ外国語指導助手として派遣するほか、児童センターにも派遣した。
小学校管理運営事業	学習サポート事業 ヘルメット購入補助事業 各種健診事業 通学費補助事業 新型コロナウイルス感染症対策事業 教材等整備事業 就学援助（要保護・要保護・特別支援学級在籍児童） 学校体育文化活動費助成事業	長期休業中に湧高生を小・義務教育学校に派遣し、学習サポート事業を実施した。小学生延べ281名、高校生延べ76名が参加した。 ヘルメット購入費補助については、20件の申請があった。 各種健診事業については、児童に対しては、尿検査、内科検診、歯科検診、耳鼻咽喉科検診、眼科検診、心臓検診、結核検診を実施した。 通学に係る支援状況については、町営（スクール）バスの無償利用の他、営業バス利用者への定期券購入費助成、芭露学園児童について公用車による送迎を実施した。新型コロナウイルス感染症対策として、各学校において、感染症対策や児童に対する学習保障を行うために必要な消耗品や備品等の整備を行った。 教材等整備では、学校用図書・学校用備品等を計画に基づき整備した。 就学援助では、要保護児童1名、準要保護児童16名、特別支援学級在籍児童6名に対し就学費を援助した。 学校体育文化活動費助成については、小学校の学校教育活動に定める課外活動の大会参加に対し、2件、649千円の助成を行った。 開盛小学校の重油地下タンクについて、老朽化のため給油設備を更新する工事を実施した。

事業名	事業内容等	実績等
中学校管理運営事業	各種健診事業 通学費補助事業 新型コロナウイルス感染症対策事業 教材等整備事業 就学援助（要保護・要配慮・特別支援学級在籍生徒） 学校体育文化活動費助成事業 上湧別中学校テニスコートフェンス改修工事 上湧別中学校兼用型芝刈り機購入	各種健診事業については、生徒に対し、尿検査、内科検診、内科検診、眼科検診、心臓検診、結核検診を実施した。 通学に係る支援状況については、町営バスの無償利用の他、営業バス利用者への定期券購入費助成、芭露学園生徒について公用車による送迎を実施した。 新型コロナウイルス感染症対策として、各学校において、感染症対策や児童に対する学習保障を行うために必要な消耗品や備品の整備を行った。 教材用消耗品・学校用図書・学校用備品等を計画に基づき整備した。 就学援助では、要保護生徒1名、要配慮生徒13名、特別支援学級在籍生徒6名に学校体育文化活動費助成については、中・義務教育学校の学校教育活動に定める課外活動の大会参加に対し、13件、1,892千円の助成を行った。 ゆうべつ学園及び芭露学園の視力検査器について、老朽化により更新整備を実施した。
義務教育学校整備事業	湧別地区義務教育学校体育館増築工事 工事監理業務 湧別小学校解体工事設計業務 上湧別地区義務教育学校校舎増築工事（R5・R6継続事業） 工事監理業務 上湧別地区義務教育学校外構工事実施設計業務	湧別地区における小中一貫教育の推進を図る目的で、施設一体型の義務教育学校を設置するにあたり、体育館の増築工事及び湧別小学校解体の設計業務を行った。 また、上湧別地区における施設一体型義務教育学校の整備に向け、校舎増築工事及び外構工事の設計業務を実施した。
国際理解教育事業	国際交流事業 小学生英会話事業	交換留学事業については、募集を行ったが、希望者はいなかった。 相互交流事業については、4年ぶりに実施し、ニュージーランドセルウィン町に中高生9名、一般1名、引率者3名を派遣した。派遣者に対して8回の事前研修及び2回の事後研修を行った。 学校の長期休業期間中には、小学生英会話事業を実施し、「世界旅行に行こう」をテーマに事業を開催した。
学校給食センター事業	町内小・中・義務教育学校及び保育所等に給食を提供する。 栄養教諭による食の指導を行う。 食料品高騰に伴う負担軽減を行う。	計画どおり給食の提供を実施。 給食対象校等の数 10施設（小学校4、中学校1、義務教育学校2、保育所等3） 給食対象人員数 796人（小学校201人、中学校84人、義務教育学校274人、 保育所等237人） 年間給食総数 166,386食（小学校39,597食、中学校16,968食、義務教育学校55,074食、保育所等54,747食） 栄養教諭が、小学校3校、義務教育学校1校に延べ21回訪問し、食に関する指導を実施し、義務教育学校2校から延べ3回の調理場見学を受け入れた。 物価高騰対策重点支援地方創生臨時交付金を活用し、食料品高騰に伴う給食費を据え置きとし、子育て家庭の経済的負担を軽減した。

(2) 令和5年度社会教育事業の実績表

令和5年度社会教育事業実績表

領域	事業名	期 日	計 画 内 容	予算額	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
		場 所		実績額 (事業終了分のみ)		
基 盤 整 備	①生涯学習 情報の収 集・提供・ 相談体制の 充実	年 間	○情報収集と提供 ・生涯学習情報誌「湧く湧く」の発行（毎月） ・遠軽地区情報誌「なな・なんと情報」の発行（2カ月に1回）（遠軽町が当番町） ・町ホームページによる情報の体系的整理と提供 ・動画による事業記録を収集し活用法を模索 ○相談体制の充実 ・生涯学習に関する相談体制の整備に努める。	「湧く湧く」 印刷製本費 1,458千円	○情報収集と提供 ・生涯学習情報誌「湧く湧く」の毎月発行 ・遠軽地区情報誌「なな・なんと情報」の偶数月発行。 ・町ホームページによる事業PR（4月～2月） まちの話題 記事数104件（前年同時期89件） ・動画により一部事業を記録保存し、活用法を模索している。 ○相談体制の充実 ・地域住民の学びと活動に関する相談に随時対応している。 ○（新）インスタグラムによる事業周知 ・11件（はいだしょうこ&恵畑ゆうファミリーコンサート、子ども会交通安全駅伝競走大会、湧別町民大学、柔道教室 他）	10-1 10-3
		—		「湧く湧く」 印刷製本費 1,405千円		
	②指導者の 発掘・養 成・活用	年 間	主体的な学習と地域貢献との好循環をすすめるため、様々な分野から指導者を発掘養成し、その活用を図る。	—	教室や講演の他事業の企画にあたって、随時講師に関する情報を収集し活用を図った。	10-4
		—		—		
	③団体活動 の支援・育 成	年 間	団体リーダーの養成を図るとともに、団体活動が円滑に行われるよう支援を行う。	—	団体の規模や体力をふまえて、主体的な取り組みに向けての協力を行った。	
		—		—		
備	④生涯学習 振興奨励事 業	年 間	グループ・サークル等が主体的に行う講演会や鑑賞会などの学習活動に対して助成を行う。（補助率75%、ただし極めて公益性が高い場合は100%）	3件 300千円	4/16みんなの学校上映（みんなの学校上映会実行委員会）：52,000円 5/13フラワーウォッチング・五鹿山（ゆうべつアウトドアクラブYU-PAL）：34,000円 6/11伍々慧アコースティックライブinYubetsu（実行委員会 伍喜楽の愛）：29,000円 12/3夢見る小学校上映会（みんなで子育て実行委員会）：43,000円	10-2 10-5
		—		4件 158千円		
	⑤施設の整 備・運営・ 連携	年 間	公共施設再配置計画など上位計画との整合を図りながら、施設の計画的な補修や整備を行うとともに事業連携・施設間連携により学習効果の向上を図る。	別紙施設整備計画のとおり	別紙社会教育施設整備計画に記載するとおり	
家 庭 教 育	①家庭教育 研修会	2/4(日)	家庭教育が困難な現状の共通理解と家庭教育の重要性を啓発するための研修会。講演後に参加者交流会を開催。健康こども課と連携し、ニーズの把握に努め定着を図る。PTA連合会に後援、家庭教育サポート企業に協賛依頼予定。開催場所や開催日時、方法について検討する。	講師謝礼 100千円 需用費8千円	テーマ「子どもたちの健やかな成長を願って」 講 師 佐々木 十美氏「置戸町食のアドバイザー」 一般参加者14名（運営協力者2名を含む） 主催：湧別町教育委員会 後援：湧別町PTA連合会 協力：北海道家庭教育サポート企業	1-1
		文化セン ターさざ波		講師謝礼70千円 需用費9千円		
	②健康こども課との事業協力	年 間	健康こども課との打合せ会議を開催し、子育て支援センター、子育て世代包括支援センターとの協力体制の充実を図る。	—	例年、家庭教育研修会に係る託児を健康こども課と協力して状況に応じて設置しており、そのことに際して打合せ会議を実施していた。R5については小学生の保護者を対象として実施したため、託児が必要となり、打合せ会議等は実施していない。今後についてもテーマの内容に伴い託児の必要に応じて打合せ会議等を行う。	1-3 1-4
少 年 教 育	③家庭教育 相談	年 間 相談室ほか	教育アドバイザーによる子育ての不安や悩みについて身近に相談する機会を提供するため、ホームページの充実を図る。	—	校長と教育AD間の連絡により随時教育相談に対応している。 特に必要とする数名の保護者に対しては、直接の面談も含め継続的に相談をしている。	1-2
	①児童宿泊 研修会	6/15(木) ～16(金)	社会性を培う機会として、全小学校5年生生合同で、体験活動を実施。担当教職員の事前打合せと反省会も行い、目的や役割分担の共通理解やノウハウの蓄積を図る。	参加費105千円 (3,500円× 1/2×60人) 需用費15千円 バス借上料96千円	全小学校の5年生53名、教諭13名、教委2名が参加 各種体験活動を通して、社会性を培う機会を提供。 5/22、5/26担当者会議を開催。担当教諭の連携を密に、スムーズな運営に努めた。また次年度に活かすため7/18反省会議を実施。	2-1 2-4
		ネイパル 北見		参加費116千円 (1人3,900円 ×1/2助成) 需用費4千円 バス借上料102千円		
	②子ども会 の育成・援 助	年 間 —	青少年指導センターの活動支援とあわせ、単位子ども会や湧別地区サポート協議会のあり方について指導助言する。	補助金 170千円 補助金 170千円	子ども会員+育成者（保護者）合計638名（昨年688名）（子ども会安全会加入者数より） 青少年指導センター事務局を教育委員会で支援（関連事業に掲載）	2-2

領域	事業名	期 日	計 画 内 容	予算額	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
		場 所		実績額 (事業終了分のみ)		
少 年	③第1回子ども会リーダー研修会	7/27(木) ～28(金) 五鹿山公園	住民自治の基盤ともなる地域子ども会の主体的な活動が進むよう、子ども会のリーダーとしての役割や心構えを学び、そのために必要な知識や技術の習得をめざす。また、青少年指導員の養成と活躍の機会とする。	青少年指導センター会計から支出	小学生8名参加、リーダークラブの中学生3名が企画・運営。青少年指導員3名が参加。集団での生活を通してリーダー養成の研修や縦のつながりができた。	2-1 2-2 2-3
	④第2回子ども会リーダー研修会	R6.3/9(土) ～10(日) 紋別市生涯学習センター			小学生20名、中学生リーダー(CAPTAIN★TEENS)2名、イーカルOB(大学生)1名が参加。紋別生涯学習センター内で体育館等を利用し、中学生リーダーが考えたレクリエーションを実施。	
	⑤百人一首教室	11月～1月 毎週土曜日	日本古来の伝統の競技を通して、ルールを守る大切さや礼儀作法を身につける機会とする。教室で継続指導することで、指導者と参加者の地域におけるつながりづくりも目指す。また、指導者の育成を図り実行委員会の活性化を促す。大会は実行委と教委との共催。小1～大人まで対象。	報償費24千円 需用費61千円	指導員の高齢化に伴い、過去に百人一首教室へ参加したことのある若い方へ事務局長から声掛けを行い、新規で3名が指導員として携わっていただけることとなった。 8/28 新規の方を含めて実行委員会を開催。	2-1 2-3
		農村センター			11/6 第2回実行委員会開催 11/11 教室開催 10名 11/18 教室開催 11名 11/25 教室開催 12名 12/2 教室開催 3名 12/9 教室開催 10名 12/16 教室開催 12名 12/23 教室開催 12名 1/6 教室開催 6名 1/13 教室開催 9名 1/21 新春交歓カルタ大会 14名	
	⑥第52回新春交歓カルタ大会	R6.1/21 (日)		報償費16千円 需用費34千円		2-1 2-2 2-4
		農村センター				
教 育	⑦湧く湧く体験塾	年間 (月1回程度)	小学校4～6年を対象に体験の機会を提供し、知的探求心、地域への愛着とコミュニケーション能力を養成する。また、成人ボランティアの指導を仰ぐことで地域の教育力活用を図る。	報償費35千円 需用費20千円 手数料1千円	小学校・義務教育学校4～6年生28名 4/22 入塾式 19名 5/13 フェリシアフェスティバル 22名 6/17 パークゴルフ体験 18名 7/22 川釣り・川遊び体験 24名 8/5 昔の湧別/羽釜でご飯 5名 9/16 丸ごと森林体験「五鹿山」 13名 10/14 飛行機の飛び仕組み 15名 11/18 絵手紙を書こう 13名 12/16 クリスマスリース 24名 1/13 氷下釣り 10名 2/10 スノーハイク「五鹿山」 12名 3/16 閉塾式 22名	2-1 2-2 2-4
		町内ほか		報償費40千円 需用費15千円 手数料1千円	協力：湧別町観光協会、湧別パークゴルフ協会、ゆうべつアウトドアクラブYU-PAL、北見工業大学、絵手紙の会、網走西武森林管理署	
	⑧湧別町・新篠津村友好都市青少年交流事業	8/8(火) ～10(木) 新篠津村 (派遣年)	自然や産業体験活動など、児童の派遣と受入の交流を毎年交互に行うことで、お互いのまちの魅力を学ぶとともに交流の輪を広げる。小学校5～6年およびリーダーとして、中・高校生も参加。小学生は参加経費の半額、リーダーは全額負担。令和5年度は友好都市20周年となる。	報償費90千円 需用費10千円 バス借上料 360千円 報償費33千円 バス借上料 332千円	湧別町9名、新篠津村8名の小学生及び中高校生のボランティア2名(湧別1名)が参加し、今年度は新篠津村で実施。仲間づくりゲームなどを通して交流を深めることができた。また、友好都市20周年を記念して開催された植樹祭に参加。	2-1 2-2 2-4
青 年 教 育	①青年団体の育成・援助	年 間 青年会館ほか	子どもを対象とした事業、屯田七タまつりでの出店などを行っている湧別町青年団体協議会を支援し、将来の地域のリーダー育成を図る。	補助金 160千円 補助金 160千円	4/26総会を開催。会員数15名。 5/13,14チューリップフェアイベント開催(15名) 5/31 チャレンジデー(モルック)(12名) 8/6屯田七タまつりイベント参加(14名) 10/7湧別麦酒祭り(5名) 1/7 20歳の集い(交流会)(2名) 2/8ニューススポーツdeあそび(モルック)(3名) 2/15ニューススポーツdeあそび(インディアカ)(5名) 2/22ニューススポーツdeあそび(ポッチャ)(3名) 3/2半崎美子明日を拓くコンサート2024協力(6名)	3-1 3-2 3-3 3-4
	②令和6年20歳の集い	R6.1/7(日) 文化センターさざ波	20歳を迎えた若者を祝い励ますとともに、社会人としての意識高揚を図る。町主催、教委主管。※現小学6年生に「20歳の自分へ」の作文収集	報償費499千円 需用費41千円 報償費364千円 需用費38千円	10月1日付け住民基本台帳情報を基に案内を送付。 交流会は成人者を中心としたレクリエーション(クイズ大会)を実施。 式典出席者62名	3-1
成人教育	①第47回湧別町民大学	9月～11月 全5回 文化センターTOM	有志実行委員会組織主催。各ジャンルの講師を招き、今日的課題や地域課題等の解決に向けた学習機会を提供する。団体とのコラボ企画や、勤労世代の参加促進にも努める。町PTA連合会との連携事業。	運営費助成 2,000千円 運営費助成 2,000千円	6/8、8/3に実行委員会を開催。 9/27山本浩氏(61名)、10/11小泉武夫氏(87名)、10/25菅野志朗氏(75名)、11/8大辻雄介氏(78名)、11/15永関博紀氏(55名)	4-1 4-2 4-3 4-4

領域	事業名	期 日	計 画 内 容	予算額	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
		場 所		実績額 (事業終了分のみ)		
成人教育	②第13回 ふるさと講座	11/11(土)	町の人を講師に、地域の価値を学び共感する機会提供のための座学講座。郷土学サークル「ふるさとから学ぶ会」との共催で行う。今回のテーマは「畑地散水・リールマシーン」	講師謝礼 30千円	一級河川から取り入れ広い地域に散水を可能にしている湧別町の畑地灌漑設備はどのように生まれたか、また、畑地への散水はどのような仕組みで行われているか、現場からの報告を中心に学ぶ。下記1部～3部を実施。一般参加者47名 1部～「畑地灌漑の誕生」尾山 弘氏 2部～「畑地散水の現場から」梶原 秀樹氏 3部～「感想・意見交換」	4-1 4-2 4-3 4-4
		TOM		講師謝礼 5千円		
	③第11回 我がまち湧別町のお宝をたずねる旅	9/16(土)	普段見落としがちな町の価値（ニお宝）を、それに詳しい講師の案内によってバスツアー形式でたずね歩き価値を共有する。今回は川西地区のキング式牛舎や遺跡を訪ねる。	講師謝礼30千円 借上料55千円	小川征一氏(川西)、林勇介氏(屯市)を案内人に、キング式牛舎とサイロ、中学校の教科書で紹介された「くま像」などを紹介。 参加人数35名	
		川西地区		講師謝礼5千円		
	④PTA団体への援助	年 間 —	各学校のPTAやその連合組織である町PTA連合会の学習活動を支援する。	補助金 180千円 補助金 180千円	連合PTA事業運営費の補助を実施。	4-2 4-4
⑤ボランティア団体との連携	年 間 文化センターさざ波ほか	はまなすボランティアなど自主的な奉仕活動を支援する。	—		4-2 4-4	
高齢者教育	①チューリップ生きがい大学の開設	年間 (月1回程度)	高齢者が充実した生活を送られるよう学習活動の機会を提供する。自主活動としてのクラブ活動も支援する。	報償費269千円 需用費36千円 印刷製本費80千円 借上料683千円	108名入級、8クラブ 4/18 開講式 74名 5/31 楽しく体を動かそう 40名 ※チャレンジデーの一環として大筋とコラボ企画 6/7 日帰り研修会「遠軽町」 58名 7/11 日赤出前講座「くすり」 41名 8/8 町内研修会「ゆうべつ学園」 32名 9/12 懐かしのレコード鑑賞会 31名 10/16～18日 宿泊研修 塩別～層雲峡 27名 11/15 北見工大講座 40名 12/6 クラブ活動発表会 69名 1/18 町内講師講演会 44名 3/6 閉講式・お楽しみ交流会 文集「生きがい」第5号発行	5-1 5-2 5-3 5-4
		文化センターさざ波ほか		報償費10千円 需用費28千円 印刷製本費62千円 借上料237千円		
	②世代間交流事業・社会活動参加奨励	年 間 学校ほか	学校からの求めに応じ、小中学校の総合的な学習への支援など高齢者の持つ豊かな知恵・技術を活用する場の提供に努めるとともに相互の交流を図る。	—		
	③アクティブシニア向け新規事業	年 間 文化センターさざ波	自分に興味があるジャンルについて3カ月単位で学ぶ「短期大学事業」などを実施し、アクティブシニアの新たな学習の機会を提供する。	報償費480千円 報償費66千円	○短期大学事業 花遊美 : 1期～2期 【学生 6名】 書 道 : 1期～2期 【学生 8名】 絵手紙 : 1期 【学生 13名】 男の料理教室 : 1期 【学生 3名】 生命の貯蓄体操 : 1期 【学生 10名】 ○通信制大学事業 申込みなし ○人材バンク事業 登録者2名	
④高齢者向けスマートフォン教室		6/29(木) 30(金) (1日2講座)	高齢者のデジタル活用力向上のためスマートフォン教室を開催する。(文部科学省補助事業)	—	町内に住むおおむね60歳以上の方を対象として実施し、基本的なスマートフォンの操作を学んだ。 ※謝礼として、国の補助金を活用。(情報通信技術講習事業補助金) 6/29 午前2名、午後1名 6/30 午前5名、午後1名	
	文化センターさざ波	報償費110千円				
社会教育委員会	①社会教育委員研修	随 時 管内 道内	研修を通じて委員としての資質向上を図り、地域における社会教育活動の充実に資する。 北海道市町村社会教育委員長等研修会 札幌市 遠紋地区社会教育委員研修会 湧別町 北海道社会教育研究大会(オンライン) 長沼町 オホーツク管内社会教育振興セミナー 遠軽町 地域生涯学習活動実践交流セミナー 札幌市	社会教育委員 報酬218千円 費用弁償152千円 社会教育委員 報酬74千円 費用弁償7千円	7/13(木)～14(金) 札幌市 北海道市町村社会教育委員長等研修会事務局1名出席 10/15(日) 湧別町 遠紋地区社会教育委員研修会 社会教育委員8名出席 10/20(金) 長沼町 北海道社会教育研究大会(オンライン) 社会教育委員3名出席 11/23(金) 遠軽町 オホーツク管内社会教育振興セミナー 社会教育委員3名出席 2/21(木)～22(金) 札幌市 地域生涯学習活動実践交流セミナー事務局1名出席	10-5

領域	事業名	期 日	計 画 内 容	予算額	実 績（状 況）等	中期計画 推進項目
		場 所		実績額 （事業終了分のみ）		
芸 ・ 文	①文化団体の 育成援助	年 間	芸術文化活動の振興を図るため文化 連盟等の育成援助を行う。	補助金 350千円	加盟団体22団体を擁し、湧別町文化連盟として活動。 総合文化祭などの文化活動を展開する。令和5 年度においては、展示部門を10/14・15で開催。 芸能部門を10/29に開催。	6-2 6-4
		—		補助金 300千円		
	②鑑賞機会 提供団体の 育成援助	年 間	良いもの見よう聞こう会等の活動 支援	補助金 10,000千円	①良いもの見よう聞こう会 2公演実施 ②その他実行委員会 1公演実施	6-1 6-2 6-4
		文化セン ターTOM・ さざ波		補助金 8,662千円		
③幼児芸術 鑑賞会	7/20(木)	幼児対象 公演内容 ひのき屋のわいわい音 楽会	公演料 500千円	(株)ヒトココチによる「ひのき屋わいわい音楽会」公 演 7/20 文化センターさざ波 児童145名 保育士 18名 計163名	6-1	
	文化セン ターさざ波		公演料 440千円			
④児童芸術 鑑賞会	9/20(水)	小学生全学年対象 公演内容 ストリンググラフィアン サンプル	公演料 500千円	「ストリンググラフィアンサンプル」公演 9/20 児童254名 教員49名 合計303名鑑賞 町内小学校・学園前期全学年鑑賞。		
	文化セン ターさざ波		公演料 420千円			
⑤中学生芸 術鑑賞会	8/28(月)	中学生全学年対象 公演内容 もったいないミュージ カル「新SCRAP」	公演料 500千円	もったいないミュージカル「新SCRAP」 8/28 文化センターさざ波 生徒154名 教員 27名 合計 184名		
	文化セン ターさざ波		公演料 498千円			
⑥一般芸術 鑑賞会	R6.3.16(土)	町民対象（1公演） 公演内容 フリールプロデュース 「あぶくの流儀」	公演料 3,600千円	道内3か所での公演を予定していたが、他町村で実 施ができなくなったことに伴い、公演料が増額し、 日程も変更になることから公演の実施は難しくなり 中止となった。		
	文化セン ターさざ波		0円			
活	⑦子ども アート体験 事業	11/25(土) ・26(日)	「演劇を遊ぶ、見る、作ってみ る」 定員 16名 国内外で活躍するアーティストが 学校や文化施設に出向き、子ども 達と一緒にワークショップや創作 活動を行い交流する事業。	—	子どもアート体験事業「子ども演劇ワークショッ プ」 11/25・26 参加者7名 北海道文化財団との共催事業	
		文化セン ターさざ波				
動 の	⑧文化芸術 作品等の奨 励	年 間	湧別町文化連盟加盟団体や町民個 人を中心に、絵画や写真などの展 示を実施し、芸術文化活動の振興 を図る。	—	(1)文化センターさざ波ギャラリー展示 ①4/11～23 高橋映子「新聞紙deアート」96名 ②4/29～5/14 アトリエ・ワタナベ絵の教室 「2023作品展」観覧数86名 ③6/17～30 湧別カメラクラブ「写真展」観覧 数80名 ④5/17～21 藤井てる子・佐藤昌江「姉妹展」 観覧数155名 ⑤9/11～24 伊藤英二「水彩画展」観覧数315 名 ⑥2/20～3/3 ばすてる「児童作品展」観覧数 90名 ⑦3/9～3/31 鈴木徹「写真展」 観覧数214名 (2)文化センターTOMギャラリー展示 常設展示～写真、俳句、友好都市交流	6-2 6-3 6-4
		文化セン ターTOM・ さざ波				
振 興	⑨カル チャー教室	年 間	子どもから大人までを対象に興味 や一般教養など町民のニーズに 合った講座等の開催に努める。	講師謝礼 80千円	(1)子ども木工教室 8/1(火)老人憩いの家木工室 小学生11名参加 (2)eスポーツ教室 11/26(日)文化センターTOM 小学生 10名参加 中学生 1名参加 (3)親子でDIY教室 1/14(日)文化センターTOM 親子20組 52名 (4)ソーフラワーBOXワークショップ 2/18(日)文化センターTOM 18名	6-1
		町内施設		講師謝礼 40千円		

領域	事業名	期日 場所	計画内容	予算額 実績額 (事業終了分のみ)	実績(状況)等	中期計画 推進項目
大会の開催等	①第38回サロマ湖100kmウルトラマラソン	6/25(日) 湧別総合体育館裏	100kmスタート午前5時00分(100kmの部) 総合体育館裏(東道路上)	負担金 3,000千円	100kmの部 出走者数2,987名 完走者1,930名 完走率64.6% 50kmの部 出走者数 455名 完走者 363名 完走率79.8%	9-1 9-2 9-3 9-4
	②湧別町少年柔道大会「上野カップ2023」	10/7(土)～8(日) 湧別総合体育館	本町のふるさと応援大使であり、柔道オリンピックメダリストの上野姉妹の冠を掲げた全道規模の小・中学生の柔道大会を開催することにより、少年相互の親睦を深め、町の活性化や交流人口の増加を図る。 参加規模：道内外小・中学生400名 大会には上野三姉妹のほか、三井住友海上女子柔道部からパリオリンピック内定の舟久保遥香選手を特別講師として招致する。	歳入総額 3,038千円 参加料700千円 スポーツ振興くじ 2,338千円 歳出総額 3,591千円 歳入総額 2,463千円 参加料等628千円 スポーツ振興くじ 1,835千円 歳出総額 3,000千円	大会前日には、上野姉妹と舟久保遥香選手による、柔道教室を開催し、多くの柔道少年団や道場、関係者が参加した。 10月8日 「柔道教室&合同稽古」 延180名 10月9日 参加者33団体321名(内町内参加者1名)	9-1 9-2 9-3 9-4
	③第48回町民300歳バレーボール大会	12/3(日) 湧別総合・中湧総体	自治会対抗形式9人制バレーボール大会	消耗品41千円 食糧費33千円 消耗品17千円 食糧費14千円	7チーム 90名参加 優勝：屯市チーム、準優勝：南町チーム 3位：北町・中町・旭チーム、錦・川西・芭露チーム	
スポーツ教室・講習会事業	①かけっこ教室	5/20(土) 百年記念広場	正しい走り方の基本や技術を学ぶことにより、運動能力の向上や怪我の予防、運動を始めるきっかけづくりにつなげることを目的とする。 講師：仁井有介氏(A-bank北海道)	講師謝礼 60千円 スポーツ推進委員報酬7千円 講師謝礼 60千円	学年に合わせた指導でレクリエーションなども交えながら瞬発力を高めるトレーニングなどを中心に参加者の運動能力向上に努めることができた。 午前の部：40名(1年生～3年生) 午後の部：10名(4年生～6年生) 講師：仁井有介氏(A-bank北海道)	
	【新規】②スポーツ王国北海道「スポーツチャレンジ教室」「コーチ・ペアレンツ講習会」	9/30(土) 中湧別総合体育館	世界第一線で活躍するアスリート等によるスポーツ体験教室を開催し、子どもたちに対しスポーツの楽しさや魅力を伝え、スポーツに対する興味関心や積極的な参加の機運を高めるとともに、指導者や保護者にスポーツの大切さを理解してもらい、子どもがスポーツに親しむ習慣が促進されることを目的とする。(北海道との共催事業) 種目：バレーボール 講師：成田 郁久美(アトランタ、アテネオリンピック日本代表、「アルテミス北海道」監督) 対象：教室 小・中学生 講習会 指導者・保護者	スポーツ推進委員報酬32千円 スポーツ推進委員報酬10千円 食糧費2千円	バレーボールの基礎技術練習をしてから、試合形式の実戦練習を行った。 また、コーチ・ペアレンツ講習会では、スポーツ選手の食事の摂り方、怪我予防について学ぶことができた。 バレーボール教室：28名 コーチ・ペアレンツ講習会：18名 講師：成田 郁久美氏(アトランタ、アテネオリンピック日本代表、「アルテミス北海道」監督)	9-1 9-2 9-3 9-4
	③ジュニアスイミングスクール	8/22(火)～25(金) 湧別プール	正しい泳法を習得させるとともに、泳ぐことの楽しさを味わわせ、水泳の普及拡大を図る。 講師：藤田千秋(トッカリ湧波会) 絹張洋史(教育委員会職員) 小橋百合香(スポーツ推進委員) 対象：小学生	講師謝礼 24千円 講師謝礼 12千円	参加者のレベルに合わせてグループを分けて実施した。参加者の学年に合わせて1年生と2年生～4年生へ変更し実施した。 8/22～23：1年生の部 延べ10名 8/24～25：2～4年生の部 延べ34名	
	④ニュースポーツdeあそび	R6.2月 湧別総合体育館他	町内の成人層を対象にスポーツを通じて健康や体力づくりを高めるきっかけづくりと新しいスポーツの普及や地域の活性化を図る。 指導者：スポーツ推進委員 対象：18歳以上(高校生を除く)40歳未満予定 内容：ニュースポーツを実施。	スポーツ推進委員報酬32千円 スポーツ推進委員報酬25千円	モルック、ポッチャなどのニュースポーツを通して、子どもから高齢者までを対象に世代を超えたコミュニケーションづくりを目的として実施した。 1回目 2/8(木) モルック 13名 2回目 2/15(木) インディアカ 18名 3回目 2/22(木) ポッチャ 14名	
	⑤ジュニアスケート教室	R6.1/10(水)～12(金) 芭露スケートリンク	初心者に対してスケートの楽しさを味わわせるとともに、技法を習得させる。 講師：久保拓也(芭露) 松本桃子(芭露) 藤本祐司(教育委員会職員) 対象：小学生	講師謝礼 24千円 講師謝礼 6千円 スポーツ推進委員報酬10千円	3つのレベルに分け、それぞれのグループで基本的な姿勢や滑り方を学び、技術の向上が図られた。 1/10(水)21名、1/11(木)20名、1/12(金)22名	

領域	事業名	期 日	計 画 内 容	予算額	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
		場 所		実績額 (事業終了分のみ)		
スポーツ教室・講習会事業	⑥クロスカントリースキー教室	R6. 1/27(土) 五鹿山スキー場	スキーの楽しさを味わせるとともに、初心者から上級者まで幅広い技法を習得させる。 指導者：スポーツ推進委員 対 象：小学生～一般市民	スポーツ推進委員 報酬7千円 講師謝礼 3千円 スポーツ推進委員 報酬3千円	スケート技術やスキーの操作などを学び、技術の向上が図られた。 小学生4名、一般3名	9-1 9-2 9-3 9-4
	⑦フィットネススクール	5月～3月 湧別総合体育館	エクササイズとトレーニング機器を使ったトレーニングを行うことにより、市民の健康維持増進と体力の向上を図る。 ①エクササイズ ②トレーニング機器を使った指導 講師：北見市 榊PHYSIT (フィジット) スタッフ 対象：一般市民	委託料 1,200千円	幅広い年齢層の参加があり、参加者に合わせたトレーニングを実施している。 5/25(水)9名、5/31(水)9名 6/22(水)9名、6/28(水)6名 7/20(水)12名、7/26(水)5名 8/24(水)8名、8/30(水)27名 9/27(水)4名、10/25(水)9名 10/26(木)11名、11/9(木)8名 11/16(木)32名、12/6(水)10名 12/13(水)10名、1/31(水)3名 2/15(木)14名、2/21(水)13名 3/14(木)7名、3/15(金)3名、3/27(水)4名	
	⑧トレーニングスクール	5月～3月 湧別総合体育館(2階トレーニング室)	個々に合ったトレーニングメニューやカルテにより、運動の効果や成果を実感してもらい、市民の健康維持増進と体力の向上を図る。 ①個別トレーニングメニュー、カルテの作成 ②正しい器具の使い方・運動相談 講師：北見市 榊PHYSIT (フィジット) スタッフ 対象：一般市民	委託料 1,155千円	参加者に合わせたトレーニングメニューを実施し、トレーニング機器についても正しい使い方を指導している。 5/18(水)7名、6/15(水)9名、7/6(水)11名、 8/17(水)9名、9/7(水)8名、10/12(木)8名 1/11(木)15名、2/1(木)12名、3/8(金)11名	
スポーツ推進委員会事業	①チャレンジスポーツスクール事業	5月～3月 湧別総合体育館他	町内の小学1年生から3年生を対象に毎月1回、様々なスポーツ体験を通して、スポーツの楽しさや学校を越えた仲間づくりの一助とする。※事業内容は変更になる場合有 5月 かけっこ教室・入学式 (湧別総合体育館) 6月 フットベース (湧別総合体育館裏) 8月 キャンプ (湧別総合体育館裏) 9月 五鹿山マラソン (湧別運動公園) 10月 柔道教室 (湧別総合体育館) 11月 ニュースポーツ体験 (湧別総合体育館) 12月 フロアボール (湧別総合体育館) 1月 スケート体験・氷上ホッケー (芭露スケートリンク) 2月 タグラグビー (湧別総合体育館) 3月 ミニ運動会・卒業式 (湧別総合体育館) 指導者：スポーツ推進委員、各スポーツ団体指導者 対 象：小学1年生～3年生	講師謝礼 パークゴルフ 5千円 フロアボール 10千円 タグラグビー 5千円 スポーツ推進委員 報酬269千円 講師謝礼 HITTHEBEAT 15千円 タグラグビー 5千円 スポーツ推進委員 報酬182千円	スポーツ推進委員が中心となり、様々なスポーツを実施している。 5/20(日)入学式・かけっこ教室 38名 6/11(土)フットベース 19名 8/18(金)～19日(土)キャンプ 38名 9/10(日)五鹿山マラソン 23名 10/7(土)柔道教室 20名 11/11(土)HIT THE BEAT 12名 12/9(土)ポートボール 28名 1/21(土)スケート体験・氷上ホッケー 21名 2/17(土)タグラグビー 16名 3/2(土)卒業式・ミニ運動会 28名	9-1 9-2 9-3
	②巡回スポーツ指導	随 時 町 内	自治会・老人クラブ等の要請に基づき、スポーツ推進委員が出向き、軽スポーツやレクリエーションの指導を行う。	スポーツ推進委員 報酬13千円		9-2 9-3

領域	事業名	期 日	計 画 内 容	予算額	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
		場 所		実績額 (事業終了分のみ)		
ス ポ ー ツ 推 進 委 員 事 業	③スポーツ 推進委員研 修	随 時	町民のスポーツ活動の的確な支援 を行うため、研修を通じて委員と しての資質向上を図る。 遠軽・紋別地区スポーツ推進委員 研修会 遠軽町 オホーツク管内社会体育振興セミ ナー 清里町	スポーツ推進委員 報酬122千円 費用弁償98千円	9/9(土)遠軽町 遠軽・紋別ブロックスポーツ推進委員等研修会 スポーツ推進委員4名 12/9(土)清里町 オホーツク管内社会体育振興セミナー スポーツ推進委員2名	9-2
		管 内 道 内	北海道スポーツ推進委員研究協議 会(オンライン)新冠町	スポーツ推進委員 報酬32千円 費用弁償1千円	10/26(木)～11/24(金) 北海道スポーツ推進委員研究協議会 オンライン	
団 体 活 動	①少年ス ポーツ団体 の育成援助	年 間	少年団本部への補助	補助金600千円	湧別町スポーツ少年団本部への補助	9-2 9-4
		—		補助金600千円		
	②一般ス ポーツ団体 の育成援助	年 間	体育協会への補助	補助金711千円	湧別町体育協会への補助	
		—		補助金711千円		
の 育 成 援 助 等 施 設 の 整 備	③大会出場 助成	年 間	全道大会以上の出場者に対して遠 征費の一部を助成する。 (湧別町スポーツ・文化遠征費補 助金)	補助金 2,000千円 補正341千円	14件(個人11件、団体6件)	9-2
		—		補助金 2,277千円		
	④合宿誘致 助成	年 間	合宿を誘致することにより町のス ポーツの振興を図る。 (湧別町スポーツ・文化合宿誘致 事業補助金)	補助金1,238千円	2件 別紙関連事業のとおり	9-1
		各施設		補助金33千円		
備 活 用 そ の 他	①施設の整 備	年 間	施設の点検、適正な維持管理を図 る。	詳細は別紙社会 教育施設整備計 画のとおり	別紙社会教育施設整備計画のとおり	9-4
		各施設				
	②施設の活 用	年 間	指定管理施設の適正かつ効率的な 運営に対する監督、学校開放施設 に関する利用調整など体育施設の 有効活用を図る。	学校開放運営報償 120千円	学校開放については、7/24より再開。 団体数：3団体 (開盛子ども会、富美子ども会、開盛自治会) 使用日数：13日間	
		各施設		学校開放運営報償 13千円		
の 他	①スポーツ 安全保険の 加入促進	随 時	広報周知等 R5よりインターネット(スポあ んネット)にて各自加入する。 (加入依頼書による加入手続きは R4を以て終了)	手数料1千円	ホームページやかかわらばん等において周知し、保険 の加入促進を図った。	9-2
		—		手数料1千円		
図 書 館 活 動	①図書館資 料の収集、 整理、保存	年 間	両館を特徴付けた選書を行い、そ れぞれに蔵書を区分し保存する。 ・資料等計画的に幅広く豊富に備 え、適切な蔵書構成を維持する。 ・貴重資料のデジタル保存	資料費(図書、 雑誌、新聞、視 聴覚) 8,412千円	<蔵書冊数> ・図書 R5 中湧別 77,891冊+湧別 69,418冊＝ 147,309冊 (R4 中湧別 76,022冊+湧別 67,192冊＝ 143,214冊) ・雑誌 R5 中湧別 58誌 湧別 48誌 (R4 中湧別 59誌 湧別 45誌) ・新聞 R5 中湧別 8紙 湧別 5紙 (R4 中湧別 8紙 湧別 5紙) ・視聴覚資料 R5 中湧別 1,077点+湧別 1,739点＝2,816点 (R4 中湧別 1,074点+湧別 1,737点＝2,811点)	7-1
		両 館		実績額 8,412千円		

領域	事業名	期日 場所	計画内容	予算額	実績（状況）等	中期計画 推進項目
				実績額 (事業終了分のみ)		
図書館	②利用促進、読書機会の提供	年間	調べものの相談、案内を通して利用促進を行う。		<来館者数> R5 中湧別 10,455+湧別 4,798人=15,253人 (R4 中湧別 10,413人+湧別 4,357人=14,770人) 前年比較 中湧別 100.4%+湧別 110.1%=103.2%) <貸出人数> R5 中湧別 6,592名+湧別 3,123名=9,715名 (R4 中湧別 6,502名+湧別 3,319名=9,821名) 前年比較 中湧別101.3% 湧別94% 両館 98.9%) <貸出冊数> R5 中湧別 28,755冊+湧別 12,733冊=41,488冊 (R4 中湧別 27,910冊+湧別 14,351冊=42,261冊 前年比較 中湧別103% 湧別88.7% 両館 98.1%)	7-2
			インターネットによる情報発信を行う。 ・デジタル資料の公開 ・事業のお知らせ ・司書によるおすすめ本の紹介 ・図書館だより、新着図書案内		・ホームページの更新 ・図書館だよりの更新 ・新着図書案内の更新（月2回発行）	
		両館	来館が困難な町民に対して宅配便を活用して個別に配送貸出を行う。 ・宅配貸出サービス		・登録者（会員制/月2回宅配） R5 1名 (R4 2名) ・貸出実績 R5 44回 234冊（延べ数） (R4 44回 192冊 延べ数）	
図書館	③ブックスタート	毎月1回	4ヶ月児健診時に、乳児とその保護者へブックスタートバック（絵本などが入ったバッグ）をメッセージと共に手渡す。また、就学時健診時には絵本を1冊とブックガイドを渡す。	資料費（絵本） 142千円 ※資料費に含む	<ブックスタート> R5 49名（延べ数） (R4 33名 延べ数) R5. 4月 4名 5月 6名 6月 3名 7月 3名 8月 5名 9月 4名 10月 6名 11月 5名 12月 3名 1月 3名 2月 3名 3月 2名 R4. 4月 4名 5月 6名 6月 4名 7月 1名 8月 2名 9月 0名 10月 1名 11月 3名 12月 3名 1月 3名 2月 4名 3月 2名 <ブックスタートプラス> R5 49名（延べ数） 10/3 保健福祉センター 25名 10/11 上湧別コミュニティセンター 24名 (R4 50名 延べ数)	7-2
		健診会場	協力（バッグ制作） ・ルピナスの会			
図書館	④絵本くらぶ	年間 (毎月1回)			<絵本くらぶ> ・登録者（会員制/月1回宅配） R5 20名 (R4 19名) ・貸出実績 R5 12回 202名 1,010冊（延べ数） (R4 10回 152名 960冊 延べ数) ・R5実績 4/20 19名 5/25 14名 6/22 15名 7/27 16名 8/23 16名 9/28 19名 10/26 5名 10/27 14名 計19名 11/23 5名 11/24 14名 計19名 12/20 5名 12/21 14名 計19名 1/24 5名 1/25 (中止) 計5名 2/21 6名 2/22 16名 計22名 3/21 13名 3/22 7名 計20名	7-3
		両館	3歳までの乳幼児がいる家庭におすすめ本セットを宅配する。（登録制）			

領域	事業名	期日 場所	計画内容	予算額 実績額 (事業終了分のみ)	実績(状況)等	中期計画 推進項目
図書館	⑤移動図書館車の運行	年間	移動図書館車で町内を巡回し、広域サービスを実施する。機動性を活かし遠隔地域を中心に据え、子どもから大人まで図書に出会う場を広げ、読書活動の推進を図る。図書館職員が選本した文庫を配本する。		・移動図書館車「わくわく号」 ＜ステーション＞ 認定こども園、保育所 3か所（年8回） 児童センター 5か所（年8回又は年4回） 子育て支援センター 1か所（年4回） 学校 8か所（年8回） 福祉施設 8か所（年4回） 地区施設 3か所（年4回） 郵便局 5か所（年4回）	7-3
		両館	・各小中学校、義務教育学校、湧別高校 ・各郵便局 ・児童施設 ・高齢者施設等		＜貸出冊数＞ ・乗車 R5 3,197冊 (R4 3,081冊 前年比較 103.7%) ・配本 R5 8,369冊 (R4 6,433冊 前年比較 130%) ・合計 R5 11,566冊 (R4 9,514冊 前年比較 121.5%)	
	⑥学校図書館支援	年間	・学校図書館用図書の購入支援 ・学校図書館レイアウト相談 ・学校図書館蔵書管理、蔵書計画 ・図書館見学の受入 ・職場体験の受入 ・読書オリエンテーション ・家読おすすぬ絵本リスト作成配布 ・読書通帳の提供		・学校配本（年8回） ・学校図書館用図書の購入支援 ・学校図書館蔵書管理（購入、寄贈、除籍） ・図書館見学 5月（芭露学園1年生）／6月（上小1年生、2年生）／7月（中1年生）／9月（ゆうべつ学園1年生、4年生） ・職場体験 9/26 中学生7名（上中5名、ゆうべつ学園2名） 10/5～6 湧別高校（2名） 10/24 遠軽高校（1名） ・学習成果発表展示 9/24～10/22 ゆうべつ学園5年生作品展示 ・講演 10/25 STC「職業と私」司書ブース 11名参加	7-2 7-3
		町内学校				
	⑦古本コーナー	年間	古本、古雑誌のリサイクル活動。		＜古本コーナー＞ ・中湧別 R5 887冊 (R4 2,239冊 前年比較 39.6%) ・湧別 R5 1,756冊 (R4 1,630冊 前年比較 107.7%) ・合計 R5 2,643冊 (R4 3,869冊 前年比較 68.3%)	7-2 7-3
		両館				
	⑧特別展示	9月～10月 両館	町民大学講師著作展示		・町民大学講師著作展示 8月～10月 両館	7-2 7-3
		年間	テーマ：年中行事		4月（こどもの日、本屋大賞、外遊びがしたくなる絵本、春の絵本）／5月（作って遊べる！「フェルト」で作った作品展、この本読んで！2022年冬号紹介本、おしゃれの絵本）／6月（おかおの絵本、かえるの絵本）／7月（ファイターズ連携展示、まいこの絵本、木はいいなあ絵本）／8月（暑い夏に食べたい！）／9月（ベスト絵本100、敬老の日、おべんとうのえほん／キャンプの絵本）／10月（ハロウィン）／11月（本と読書がテーマの絵本、クリスマス）／12月（ゆきだるまのえほん、中湧別図書館絵本かしだしランキング2023）／1月（節分、ブック・オブ・ザ・イヤー2023、このミステリーがすごい！2023傑作ベスト20、このミステリーがすごい大賞）／2月（第16回MOE絵本屋さん大賞2023、ひな祭り）／3月（入学・入園関連本）	
		両館				
		4/23(日)～5/10(水) 両館	子ども読書週間		・「むかしばなしの世界」 4/22～6/25 中湧別図書館 ・「学び舎の記憶。そして、未来へ」 4/21～5/12 湧別図書館	
		10/27(金)～12/5(火) 両館	読書週間		・「えほんのなかのパンやさん」 10/19(木)～11/29(水) 中湧別図書館 12/1(金)～1/30(火) 湧別図書館 ・「日本一の展示」 10/26(木)～11/29(水) 湧別図書館	

領域	事業名	期 日	計 画 内 容	予算額	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
		場 所		実績額 (事業終了分のみ)		
図書館	⑧特別展示	6/10(土) ～6/24(土) 中湧別図書館	絵本原画展示「チリとチリリ ちかのおはなし」(どいかや/作・絵)	著作物使用料 30千円 実績額 30千円	・絵本原画展「チリとチリリ ちかのおはなし」 (どいかや/作絵) 6/10(土)～6/24(土) 中湧別図書館	7-2 7-3
		年 間 向 館	協力展示(展示スペースの貸出)	—	・教科書展(教育総務課) 7/1(土)～11(火) 中湧別図書館	
	⑨連携・ ネットワー ク	年 間	ボランティア、サークル育成 ・読み聞かせ活動支援(りんごっこ、リーディング倶楽部たんぼぼ、湧別高校ボランティア部)		・リーディング倶楽部たんぼぼ 毎週水曜日湧別小学校1年～3年生読み聞かせ訪問 毎週水曜日 本の修理ボランティア 育児学級「読み聞かせ」(子育て支援センター事業) 5/19「文部科学大臣表彰」伝達表彰式(教育長室) 1/31「図書寄贈」ゆうべつ学園へ絵本等27冊を寄贈	8-1
		両 館			・りんごっこ 月2回土曜日中湧別図書館「読み聞かせ会」(9/2開始) ・湧別高校ボランティア部 月2回土曜日 中湧別図書館「読み聞かせ会」 (9/16開始) ブックスタートバッグ用「名札」制作 壁画制作(中湧別図書館おはなしコーナー設置)	
		年3回 児童セン ター	児童センター事業支援 ・読み聞かせ会参加協力、読書推進事業の実施		・育児学級読み聞かせ(月1回) リーディング倶楽部たんぼぼ/協力	
		会議3回 研修1回	図書館協議会 ・定例会議 ・委員視察研修(町内学校図書館)		6/ 1 第1回図書館協議会会議 4名 8/ 3 視察研修(町内学校図書館) 4名 ・芭露学園 ・ゆうべつ学園 ・富美小学校 ・中湧別小学校	
		湧別図書館			10/24 第2回図書館協議会会議 3名 2/29 第3回図書館協議会会議 5名	
		7月～9月 両 館	・北海道教育委員会主催「本を読んでファイターズを応援しよう」 キャンペーン参加		・「青少年のための200冊」等展示(両館) ・キャンペーン読書期間 7/26～8/20 ・参加者:31名(内訳:中湧別16名、湧別15名) ・読了者:17名(内訳:中湧別 5名、湧別12名)	
文化財保護	①文化財の 保護(1) 埋蔵文化財	年 間	○開発行為に伴う埋蔵文化財の保護事業 ・開発事業者との事前協議 ・所在調査、試掘調査 ○埋蔵文化財包蔵地の状況把握 ・現状確認(遺跡パトロール) ・周知資料(台帳等)の整備 ◎シブノツナイ竪穴住居跡の調査 ・発掘調査:竪穴住居跡の年代等内容確認 ※7月中旬～8月中旬予定 ・発掘調査概要報告書の刊行 ○シブノツナイ竪穴住居群調査検討委員会の開催 ・有識者3名、国・道の担当者2名程度 ・夏と冬の2回開催	委託料 (年代測定等) 1,038千円 印刷製本費 248千円	○開発行為に伴う埋蔵文化財包蔵地の保護活動 ・埋蔵文化財包蔵地の照会:17件 ・事前協議2件(協議継続中、2件) ・所在調査2件 ・試掘調査0件 ・工事立会1件、慎重工事1件(福島団地7遺跡) 9/19～23 ○埋蔵文化財包蔵地の状況把握 ・現状確認作業(遺跡パトロール)随時実施 ・周知資料(台帳等)の内容確認と修正 ◎シブノツナイ竪穴住居群の保護 ・遺跡の内容詳細を把握するための発掘調査 7/13～8/19 ・令和5年度発掘調査概要報告書の刊行 (3/20) ・自然科学分析 ①古環境調査:周辺地形の環境復元(珪藻) ②年代測定:竪穴住居跡の年代特定 ○シブノツナイ竪穴住居群調査検討委員会の開催 第一回:7/27開催 第二回:2/22開催 委員3名、道教委1名、町教委2名 文化庁調査官現地指導:9/28～29	8-1
		町内各所		委託料 (年代測定等) 462千円		
活動	②文化財の 保護(2) 自然関連	年 間	○北海道指定文化財アッケシ草群の経過観察 ○天然記念物の手続(死亡・はく製・調査) ・オジロワシ ・タンチョウ ○記念木業務における関連部署との調整		○(道指定)天然記念物 ・佐呂間湖畔鶴沼のアッケシソウ群落 経過観察:9月実施 ○(国指定)天然記念物 ・オジロワシ ・タンチョウ 手続(死亡・はく製・調査):0件 ○記念木 指定解除:1件(南兵村一区) 標識の修繕:3件(富美小学校2件、開盛1件)	8-1
		町内各所				

領域	事業名	期 日	計 画 内 容	予算額	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
		場 所		実績額 (事業終了分のみ)		
博 物 館 活 動	①博物館資料(1) 収集	年 間 郷土館・ふるさと館 JRY	【開拓関連資料】 ○資料寄贈への対応 【考古資料】 ○発掘調査に伴う出土資料の譲与申請		○博物館資料の寄贈受入 ・寄贈資料受入11件（古写真ほか） ○文化財の認定と取得 ・埋蔵文化財の譲与申請：1件 令和4年度発掘調査出土資料	8-2
	②博物館資料(2) 整理・保管	年 間 郷土館・ふるさと館 JRY・収蔵庫	○考古資料 ・シブノツナイ竪穴住居群出土資料の整理 ・試掘調査等出土資料の整理 ○開拓関連資料 ・資料の保存環境整備 ○収蔵庫の管理と保管資料の状況確認 ・金属資料の清掃整理（防さび塗料塗布等） ・資料外保管物の処分 ・JRY収蔵量増加 ・資料移動（旧芭小体育館） ○収蔵資料の特別利用許可に関する業務		○考古資料 ・シブノツナイ竪穴住居群出土資料の整理 ○開拓関連資料 ・保存環境の整備 ○収蔵庫の管理と保管資料の状況確認 ・JRY収蔵量増加 ・資料移動（旧芭小体育館） ○収蔵資料の特別利用許可 ・4件（ナウマンソウ臼歯化石ほか） *レプリカ作製2件 （忠類ナウマンソウ記念館ほか）	
	③博物館資料(3) 展示	年 間 郷土館・ふるさと館 JRY	○常設展示更新 ・解説パネルの追加と更新 ○収蔵資料展示 ・発掘調査速報展（仮） ・「発掘された日本列島2023」文化庁主催への協力 *シブノツナイ竪穴住居群の写真・説明文を提供 ①山梨県立考古博物館 9/16～10/29 ②対馬市博物館（長崎県）11/11～1/8 ③平城宮いざない館（奈良県）1/20～2/11 ○収蔵展示室整備		【郷土館】 ○展示 ・「令和4年度発掘調査速報展」6/24～12/25 ・「発掘された日本列島2023」（文化庁主催への協力） 道史跡シブノツナイ竪穴住居群の写真を提供 山梨県立考古博物館：9/16～10/29 対馬博物館：11/11～1/8 平城宮いざない館：1/20～2/11 ○入館者数（2月29日時点） ・440名（大人415名、内町民81名、幼児～高校25名、内町民9名） 【ふるさと館JRY】 ○常設展示更新 ○入館者数（2月29日時点） 2,152名（大人1,758名、内町民138名、小学～高校333名、内町民146名）	8-2
	④調査研究	年 間 —	【博物館資料（開拓期）の保存・活用】 ○保存 ◎屯田関連情報の収集 ○活用 ・開拓期の衣食住 ・冬期の生活 【埋蔵文化財の保護と活用、博物館教育】 ○道史跡の守るべき範囲・価値の明確化 ・シブノツナイと他の道内竪穴群との比較研究 ・擦文集落形成に関する調査研究 ・発掘出土資料の自然科学分析 ○教材研究 ・遺跡を活用した博物館教育の実践的研究 ○その他 ・大学等研究者との共同研究		【博物館資料（開拓期）の保存・活用】 ○保存 ・収蔵資料の保存に関する調査研究（書虫等） ・資料清掃および注記 【博物館資料（開拓期）の保存・活用】 ○保存 ◎屯田資料 ○活用 ・体験活動の系統化 ・開拓期の衣食住 ・冬期の生活 【埋蔵文化財、博物館教育】 ○事例研究 ・シブノツナイと道内竪穴住居群の比較 ○科学分析 ・シブノツナイ周辺の古環境復元（花粉分析） 岡孝雄（北海道技術コンサル） ・擦文文化の食料分析 國木田大（北海道大学准教授） ・土器庄痕の植物分析 太田圭（東京大学助教） ・土器胎土の組成分析 今泉和也（日本学術振興会特別研究員） ○教材研究 ・遺跡散策ガイドブック『遺跡のミカタ』の更新 ・シブノツナイ竪穴住居群案内パンフの試作	8-2

領域	事業名	期 日 場 所	計 画 内 容	予算額 実績額 (事業終了分のみ)	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
博 物 館 活 動	⑤博物館教育(1) 学校授業・研修会・講座	年 間	【学校授業・研修会・講座】 ○開拓の歴史 (博物館が持つ過去の生活情報の内、日常生活に活用できるものを体験学習として実施) ・労働体験(鋸・斧・鉋) ・炊飯体験(薪ストーブ・羽釜) ・開拓期の衣体験 ・囲炉裏疑似体験(屯田生活体験館) ○博物館親子講座	講師謝礼 70千円	【学校授業、研修会等の学習機会提供】 ○授業及び展示解説実績(2月29日時点) ①ふるさと館JRY 19件339名(内学校:13件247名) ②郷土館 2件82名(内学校:1件36名) ③出張講演 14件462名(内学校:9件277名) ④施設利用 6件124名	8-3
		郷土館・ふるさと館JRY	○先史文化 (文化財である遺跡に触れ、親しむ機会の提供) ・先史の工夫を学ぶモノづくり学習 (土器・勾玉) ・遺跡に親しむフィールドワーク ・遺跡の知識を深める講座 遺跡調査報告会(11月予定) *調査成果に応じて実施を判断する ・発掘調査の現地説明(主に学校を対象) ・発掘調査を通じた大学との連携	講師謝礼 35千円	【講座等】 (講師等依頼:中島館長) ○遠軽ブロック教頭会研究大会 7月26日(水)、約20人 ○上湧別地区義務教育学校開校準備委員会 「総合的な学習の時間カリキュラムに関して」 9月21日(木) (講師依頼:林学芸員) ○第28回 環オホーツク海文化のつどい(紋別市) 「シブノツナイ 堅穴住居群の発掘調査速報」 8/26(土)、約80名 (主催) ○令和5年度遺跡調査報告会 11/18(土)、参加者約40名 講師①北海道大学 准教授 國木田 大 講師②ふるさと館JRY 学芸員 林 勇介	
	⑥博物館教育(2) 広報・情報提供	年 間 —	【広報・情報提供】 ○博物館だよりの発行(湧く湧く内、HP) ○郷土史に関する情報提供及び質問対応(レファレンス)		【広報・情報提供】 ○博物館だより(湧く湧く内) 4~3月号(160号~171号) ○郷土史に関する質問対応 ・屯田兵祖先調べ、町内の遺跡など	

中期計画推進項目の欄は、第3次湧別町社会教育中期計画における推進項目との対応を示すものです。

中期計画における領域	推進項目	表記
第1節 家庭教育	学習機会の提供	1-1
	活動等の支援	1-2
	学習環境づくり	1-3
	連携ネットワーク	1-4
第2節 少年教育	学習機会の提供	2-1
	活動等の支援	2-2
	学習環境づくり	2-3
	連携ネットワーク	2-4
⋮	⋮	⋮
第10節 生涯学習の基盤整備	学習推進体制整備	10-1
	施設整備・活用	10-2
	学習情報収集・相談	10-3
	指導者養成・団体	10-4
	連携ネットワーク	10-5

令和5年度 関連事業（後援・連携事業）

団体名	事業名	期 日	場 所	計 画 内 容 等	実績（状況）等	備 考
青少年指導センター	子ども会フットベースボール大会	7/2(日)	上湧別百年記念公園	単位子ども会の大会への参加を通して、青少年の健全育成を図ると同時に、地域子ども会活動の促進と、相互の交流を図る。また、監督会議や反省会等を通じ、育成会で構成される組織運営の健全化を図り、地域自治の基盤づくりを支援する。	参加チームが少ないため大会ではなく交流会として開催。（雨天のため会場を中湧別ゲートボール場に変更） 参加者23名を当日チーム分けして実施。	
	子ども会交通安全駅伝競走大会	10/1(日)	開盛小 → 中湧別小		8/24監督会議を開催し周知参加募集したが、9/15締切時点で予定していた5チームに満たなかったことから、リレー駅伝大会を実施。（参加者25名）	
	子ども会ミニバレーボール大会	11/12(日)	中湧別総合体育館		小学生の部 参加者：47名参加(9チーム) 中学生の部 参加者：26名参加(4チーム)	
	子ども会リーダー研修会	7/27(木)～28(金) R6.3/9(土)～10(日)	五鹿山公園 紋別生涯学習センター	社会教育事業 少年教育参照	社会教育事業 少年教育参照	
町民会議	青少年健全育成町民会議事業	年間		青少年のたくましく健全な成長と青少年問題の理解を深めるとともに健全育成を図る。 ①あいさつ運動 ②指導、補導 ③青少年だより発行 ④優良青少年表彰	①あいさつ運動②街頭補導③青少年だより発行④優良青少年表彰	
	文化連盟 総合文化祭	芸能の部 10/29(日) 展示の部 10/14(土)・15(日)	文化センターさざ波（芸能） 文化センターTOM（展示）	町内の芸術・文化関係者による日頃の活動成果の発表の機会と、町民に芸術・文化活動にふれてもらい文化の振興、発展を促します。	芸能発表会 10/29(日)文化センターさざ波大ホール 展示作品展 10/14(土)・15(日)文化センターホール	
良いもの見よう聞こう会	芸術鑑賞会	7/10(月)	文化センターさざ波	大黒摩季30th Anniversary Best Live Tour	日程 7月10日(月)19:00開演 場所 文化センターさざ波 売上枚数 388枚、入場者数388名	
		10/22(日)	文化センターさざ波	はいだしょうこ&恵畑ゆうファミリーコンサート	日程 10月22日(日)11:00開演 場所 文化センターさざ波 売上枚数 151枚、入場者数145名	
ゆうべつ活性化実行委員会	芸術鑑賞会	3/2(土)	文化センターさざ波	半崎美子明日を拓くコンサート2024	日程 3月2日(土)19:00開演 場所 文化センターさざ波 売上枚数 419枚、入場者数 393名	
体育協会	ゆうべつ五鹿山マラソン2023	9/10(日)	五鹿山スキー場	五鹿山スキー場を駆け上がるマラソン大会を実施することにより、町民の体力増進や健康づくりを高めるきっかけづくりと地域の更なる一体感の醸成を図ることを目的とする。	一般の部（男子20名・女子3名）23名 高校生の部（男子15名・女子4名）19名 中学生の部（男子3名・女子2名）5名 小学生（高学年）の部 17名 小学生（低学年）の部 28名 合計92名	教委、スポーツ推進委員も運営協力
スポーツ協会	第54回湧別町スケート大会	2/3(土)	芭露スケートリンク	1周300mシングルトラックタイムレース（男女混合学年別） 未就学児、小学生、中学生、一般、アトラクション（宝さがし）	未就学児 5名、小学生29名、中学生4名、一般8名 合計46名	

団体名	事業名	期 日	場 所	計 画 内 容 等	実績（状況）等	備 考
実行委員会	チャレンジ デー2023	5/31(水)	町内	住民総参加型のスポーツイベントである「チャレンジデー」に参加し、町民の健康づくりや体力づくり、スポーツやレクリエーション活動への参加意欲の高揚と習慣化を推進する。	湧別町 対 岩手県軽米町 人 口 8,096名 8,310名 参加者 4,083名 4,848名 参加率 50.4% 58.3%	
	北柔会道場 関連湧別合 宿	9/23(土) ~24(日)	湧別武道館	柔道合宿のほか、町内の子ども達に対する柔道教室を開催することで、柔道の普及、交流人口の拡大を図る。	合宿人数9名 北柔会道場（当麻町） 選手5名、指導者2名 山下道場（名寄市） 選手1名、指導者1名	
		10/8(日) ~9日(月)	湧別総合体育館 アリーナ		合宿人数14名 北柔会道場（当麻町） 選手6名、指導者6名 山下道場（名寄市） 選手1名、指導者1名	
	湧別原野オ ホーツク ロスカント リースキ 大会	R6. 2/25(日)	遠軽町 →湧別町	原野コース80km、北大雪コース56km、遠軽コース22km、湧別コース24km、10kmコース、5kmコース、駅伝コース95km	原野コースは雪不足のため、中止とした。 24km（湧別コース）出走者 456人 完走者 453人 完走率 99.34% 10kmコース 出走者 38名 完走者 38名 完走率 100% 駅伝 8チーム 完走 8チーム	

令和5年度社会教育施設整備計画（500千円以上または主要なもの）

（単位：千円）

施 設 名	改修・整備等内容	事業費	実績額	備 考
文化センターTOM	排気ファン修繕	650	605	
	インターロッキング補修工事	530	517	
	ロビー木質化工事	20,600	20,350	
	個室型ベビーケアルーム購入	3,600	3,542	
文化センターさざ波	舞台吊物装置改修工事（全7期中2期目）	37,800	36,960	
湧別屋内ゲートボール場	LED化改修工事	5,050	4,939	屋内45灯 外灯6灯
五鹿山スキー場	リフト非常用制動機取替工事	2,628	2,497	
	ゲレンデ拡幅工事	10,000	9,460	
	支柱クッションマット、セパレートネット購入	2,308	2,244	
中湧別図書館	大型ロールスクリーン更新修繕	1,030	1,023	
ふるさと館JRY	トイレウォシュレット化修繕	537	460	
	ボイラー煙突清掃整備修繕	2,240	2,175	

5 外部評価

(1) 学識経験者

氏 名	所 属 等
尾山 弘	元 湧別町教育委員会 教育総務課長

(2) 聴取日

令和6年8月21日（水）

(3) 主な意見

令和5年度の「教育委員会点検・評価報告書」は、令和5年度湧別町教育行政執行方針に掲げられた内容に基づき、主要な事業ごとに適切に整理区分され、事業内容や成果、課題や改善方策がまとめられており、1年間、目標を達成するため、方針に沿って事業が適切に行われていたことが窺えます。

令和4年度まで大きく影響を受けていた新型コロナウイルス感染症による事業の中止や縮小もほとんどなくなり、コロナ禍前の教育活動ができた印象を受けます。今後、この評価をさらに検証し、学校教育や社会教育において、地域住民のニーズに応じた教育の振興のためご尽力されるよう期待します。

ア) 教育委員会の活動状況について

教育委員会は独立した行政機関として教育長と4名の教育委員による慎重審議が行われ、定期的に会議が開催されており、適正にその機能を果たしてきたものと認められます。

審議状況を見ますと、法令又は条例に基づく委員等の任命に関することや法規たる性質をもつ教育委員会告示、規則・規定の改正に関することが多く審議され、各種委員会委員の委嘱等が適切に行われたこと、また、国の制度改正や社会の実情に合わせ、関係条例等の改正について十分な協議がなされたことが窺い知れます。

教育委員会会議以外では、各種行事に参加されており、また、学校訪問で現場の状況を把握されるなど、積極的に活動されていると判断できます。

イ) 学校教育について

令和5年度は小中一貫教育の推進を進めてこられたことがわかります。令和5年4月に開校した湧別地区義務教育学校の体育館増築工事をはじめ、上湧別地区義務教育学校の開校に向け、校舎の増築工事を行ったほか、開設

準備委員会や開校準備委員会において開校に向けた準備を進められていることは大変評価できます。引き続き、町内3校目となる義務教育学校の開校に向けて取り組まれることを期待します。

学力向上については、「湧別町型学校力向上事業」や主体的・対話的な深い学びを充実させる研究会等の開催、指導室と学校の連携など、様々な学力向上施策や事業を行い、授業改善や改革を行ってきたことがわかります。全国学力学習状況調査では、小学校が国語で全国平均を上回ったものの、中学校では残念ながら全国平均を下回る結果となったようですが、引き続き、基礎学力をつける取組や主体的で探求的な学びに取り組み、学力向上、指導力向上に向けての取り組みを進めることを期待します。

I C T教育については、教員主導の「湧別町 I C T教育推進委員会」が中心となり、各学校で着実に活用が増加しているようであり、今後も実践的な端末の活用方法の研究が図られることを期待します。

中高一貫教育推進事業については、平成17年度から実施されてきておりますが、事業の方向性を見直し、令和6年度から「主体的・対話的な教科学習」と「地域と連携した探究的活動」を新たな柱として進めていくこととなったことについては、今後更なる中高一貫教育の推進が図られますことを期待します。

湧別高校存続対策事業では各種補助事業が行われ、保護者の経済負担軽減や学力向上、部活動の推進に適切に支援が行われており、湧別高校進学への対策に効果があったと考えられます。また、令和5年度に新設された部活動に対し、活動環境の整備を図られており、引き続き入学者の確保に繋がるような支援を期待します。

ウ) 社会教育について

社会教育振興事業では、「家庭教育」「青少年教育」「成人教育」「高齢者教育」の各世代別のニーズに対応した事業や各種団体運営支援を通じて町民の自主的な学習活動を推進する事業が実施されていたと思います。

青少年教育においてのリーダーの養成を行ったことや、高齢者教育において新規事業が実施されたことは仲間づくりや新たな体験活動の提供に効果的であったと考えます。

社会教育施設については、計画的に整備が行われており、町民が安全安心に施設を利用できよう管理がされております。

スポーツ活動振興事業では、4年ぶりに100kmウルトラマラソン大会が開催され、また、チャレンジデーなどの町民がスポーツに親しむ機会の提供と健康を維持・増進する支援が行われています。

芸術文化振興事業では、文化連盟や団体の補助、自主的活動推進を支援し

たほか、各世代向けの事業を実施し、多くの町民が芸術文化に触れる機会が提供できています。特に、小学生や一般向けの体験事業や教室を開催することにより、参加者が文化活動に参加し、発想力・想像力を養う一助になっています。これからも生活を潤す芸術・文化に親しむ機会を提供し、文化意識の高揚が推進される取組を期待します。

博物館・文化財保護活動では、「シブノツナイ堅穴住居跡」の発掘調査が継続して行われ、情報の収集及び資料の整理、調査研究の発表などが実施されています。また、博物館が持つ情報を活用し、学校の授業や研修会、出張授業を実施したことは大変有益なことと思います。

図書館活動振興事業では、適切に資料の収集、整理、図書の貸し出し、管理が行われています。また、第2次「湧別町子どもの読書活動推進計画」に基づき、ブックスタート関連事業や、特別展示、郷土資料のデジタル化なども実施されており、読書に親しむ機会が提供されています。

エ) まとめとして

教育委員会は、各種多様な事業を展開・活動しており、町民からの要望も多くあるところであります。多くの教育課題解決や幅広い町民ニーズへの検討、事業の充実に向けて日々努力されていることに、敬意を表します。

少子高齢化が進み、個々の価値観が変化しつつある現代では柔軟な発想が求められ、また、関係機関との連携も必要であります。学校、地域、行政が一体となり、湧別町の教育がますます発展するための取り組みを期待します。

教育委員会においては、この点検・評価の内容を十分に精査するとともに、これまでの取り組みを継続して実施されること、または改善方策を反映し、ますます湧別町の教育の推進のために努力されることを期待します。

6 参考資料

令和5年度 湧別町教育委員会教育行政執行方針

令和5年第1回湧別町議会定例会の開会にあたり、教育委員会の所管行政に関する主要な方針を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が人々の生活に大きな影響を与えたことにより、人工知能や仮想空間技術など既存の価値観や枠組みを覆す革新的な情報技術の利用が進み、私たちの社会生活に大きな変化をもたらしております。

このような背景の中で求められる教育の使命は、どのような社会変化にも柔軟に対応しつつ、未来を自ら判断し行動できる「生きる力」を備え、社会に活かすことのできる人材育成であります。

教育委員会といたしましては、学校教育の柱を「知」・「情」・「意」・「体」・「郷土」と定めて、子どもたちに、確かな学力、豊かな人間性、自らを律する心、健康と体力、郷土を愛し守る心をバランスよく育ててまいります。

社会教育にあつては、基本理念を「ふるさとを知り、ふるさとを好きになり、ふるさとを守り育てる」と定め、町民一人ひとりが、心の豊かさや生きがいを持ち生活するために、いつでも、どこでも、だれもが学ぶことのできる生涯学習社会の実現に努めてまいります。

このような考えのもと、湧別町の教育目標を

- 1 社会に参画できる実践的な能力をはぐくむ
- 2 自他を尊重し、ともに支える豊かな心をはぐくむ
- 3 自らを律し、自ら行動する積極的な心をはぐくむ
- 4 健やかな体と生命を尊ぶ心をはぐくむ
- 5 自然・環境を守り、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度をはぐくむ

5つの教育目標を制定し、令和5年度に取り組む重点施策について申し上げます。

第一は、「小中一貫教育の推進について」であります。

優れた教育環境を確保するため、町内全域で小中一貫教育の導入を進めており、本年度は湧別地区に本町2校目となる義務教育学校「ゆうべつ学園」を4月に開校させるとともに、前期課程用の屋内体育館を建設いたします。

また、上湧別地区については、4つの小学校と1つの中学校を廃止して施設一体型義務教育学校を令和7年4月に開校することといたしました。このため校舎は上湧別中学校を活用して整備することとし、本年度から2か年で増築校舎を建設し、既存校舎の改修工事を令和6年度に実施してまいります。

第二は、「学力向上の取り組みについて」であります。

全国学力・学習状況調査の結果が全国平均並みとなっており、これまで実施した湧別小学校を核とした「湧別町型学校力向上事業」の効果が表れております。

また、北海道大学大学院教育学研究院の支援により中学校での「学びの共同体」の授業スタイルによる学力向上を進めております。

本年度は、これらを全ての学校に普及させるため「湧別町学校力向上プラン」を作成し、これを各学校と連携することで、町内全体の学力向上を図ってまいります。

第三は、「ICT教育について」であります。

令和3年度から利用開始したGIGAスクール・タブレットパソコンは、日常的に授業で活用しているほか、複式学級の授業での活用や他校とのオンライン授業、あるいは新型コロナウイルス感染症でのオンライン授業など、さまざまな場面で利用が進んでおります。

本年度は、各学校での利用実態を調査し、その中から特に学習効果が高い活用方法を町内の全学校で情報共有し、ICT機器の利活用を図ってまいります。

第四は、「安全・安心な学校づくりについて」であります。

新型コロナウイルス感染症の対策については、引き続き国の対応ガイドラインや衛生管理マニュアルに基づく対策をとりながら、学校行事等の平常化を進めます。また、オンライン授業やタブレット持ち帰りなど学びを止めない対策を行ってまいります。

登下校の安全確保については、「湧別町通学路交通安全プログラム」に基づき、地域や警察・道路管理者と連携して安全確保に努めてまいります。

本年度から法律改正により全ての自転車利用者を対象にヘルメット着用努力義務化となるため、ヘルメット購入補助金の対象者を中学生まで拡大し、児童生徒の安全確保を図ってまいります。

第五は、「豊かな心と健やかな体の育成について」であります。

豊かな心を育むため、道徳授業や集団生活のルールを指導するとともに、運動の習慣化や規則正しい生活、スマートフォンやゲーム依存の防止なども指導することで、心と体が調和した優れた人格形成を図ってまいります。

いじめや不登校については、早期発見と素早い対応に努め、家庭や関係機関と連携して早期解決を図ってまいります。

第六は、「特別支援教育について」であります。

支援を必要とする児童生徒個々に応じた支援を行うため、通級指導教室をゆうべつ学園に設置し、ここを拠点として他校へ教員が巡回して通級指導を実施いたします。

あわせて各学校に特別支援教育支援員を引き続き配置するとともに、関係機関との連携を図り適切な支援を提供してまいります。

第七は、「部活動の地域移行について」であります。

国が進める部活動の地域移行は、学校教育の一環として行われてきた中学校の部活動を社会教育として行う「地域クラブ活動」に移行するもので、少子化が進むなか将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保するものであります。

国のガイドラインでは本年度から３年間の改革推進期間中に、休日の部活動を地域移行することを目標にしておりますが、地域移行が難しい場合は、学校部活動を継続しつつ外部人材の導入による地域連携を進めることが求められております。

このため、本町の地域移行のありかたについて、本年度から検討を開始いたします。

第八は、「中高一貫教育について」であります。

町内中学校・義務教育学校後期課程と湧別高校で行う中高一貫教育は「キャリア教育」を連携の柱として平成１７年度から実施しております。しかし地元中学生の湧別高校への進学率が低く伸び悩んでおり、事業内容の見直しが必要となっております。

そのため中学生にとって魅力ある中高一貫教育としなければなりません。

このため、これまでのキャリア教育をベースとしながら、大学入試での総合型選抜の対応や社会人としての地域参画力の育成など新たな視点を加えるなど、本年度から中高一貫教育の見直しを行ってまいります。

第九は、「北海道湧別高等学校への支援について」であります。

湧別高校の魅力化と入学者数の増加を図るため、「北海道湧別高等学校存続対策事業」を継続して実施してまいります。本年度は新たにソフトテニス部とeスポーツ部を設置するため、これに必要なテニスコート整備費用を支援するとともに、eスポーツ部の活動場所とするため文化センターTOMにゲーミングパソコンを設置いたします。

また、令和6年度から全国募集をするために必要な広報活動経費などに支援を行ってまいります。

第十は、「国際理解教育の推進について」であります。

外国語教育については、英語検定資格の取得をめざす「英検チャレンジ事業」の対象学年を拡大して実施いたします。

また、友好都市であるニュージーランドのセルウィン町及びカナダのホワイトコート町と行っている中学生・高校生の交換留学事業と相互交流事業は、新型コロナウイルス感染症の影響で3年間中止としておりましたが、本年度はニュージーランドへの派遣を実施する予定であります。

第十一は、「学校給食センターの運営について」であります。

学校給食については、施設内の衛生管理を徹底し、地場産や北海道産の食材を優先的に使用した栄養バランスの優れた給食を提供してまいります。

また、食育については、食の大切さや食に関する正しい知識と食習慣を身に付けるための栄養教諭による指導を行ってまいります。

本年度の給食費については、賄材料費の高騰が続いておりますが、昨年同様に据え置きとし1食当たり小学生247円、中学生285円で提供してまいります。

第十二は、「社会教育の振興について」であります。

社会教育では、「人、自然、ふるさとから学び、地域とともに生きる」をテーマとして、本年2月に策定し、本年度を初年度とする「第3次社会教育中期計画」に基づき、町民の皆さんが地域で相互に学びあうことにより、豊かな人間性を育み、その力を地域で発揮できるよう、それぞれの分野における取り組みを進めてまいります。

家庭教育については、すべての教育の原点であり、子どもたちの健やかな成長を育む基礎となるものでありますが、近年、核家族化や地域でのつながりの希薄化等を背景とした家庭教育における様々な課題が指摘されております。

このため、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が孤立してしまうことのないよう、親子で気軽に集い、交流を図る機会として従来の家庭教育研修会の実施方法を見直すとともに、子育て世代包括支援センターと連携を密にし、情報提

供や相談体制の充実を図ってまいります。

青少年教育については、小学校高学年を対象とした「湧ゆう湧くわく体験塾」や「児童宿泊研修会」で、地域の人材を活用しながら、自然体験やスポーツ体験、ボランティア活動などを行い、豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を高めながら成長を促す取り組みを推進してまいります。

また、少子化に伴い、子ども会の活動が年々少なくなっていることから、全町的な子ども会事業を実施する青少年指導センターを支援することで、地域子ども会事業を補完するとともに、中高生リーダーの養成にも努めてまいります。

青年団体協議会は全町的な青年組織であります。が、会員不足などの課題も抱えておりますので、職種を超えた仲間づくりや、地域の青年組織の結びつきを深める自主的な取り組みに対して支援してまいります。

成人教育については、成人期は、家庭はもちろんのこと、地域や職場、サークルなどで中心的な役割や責任を担うとともに求められる時期でもあります。そのため学習領域も生活や職業上に加え、福祉や健康、地域活動など多岐にわたります。

このことから、「町民大学」や「ふるさと講座」などを開催している社会教育関係団体への支援のほか、生涯学習振興奨励事業補助金により、自ら企画実施する自主事業を支援するとともに、町民の学習機会の充実に努めてまいります。

高齢者教育については、令和4年度から実施している活動意欲の高いアクティブシニアをターゲットにした3か月ごとの短期学習事業の拡充を図るとともに、「チューリップ生きがい大学」での学習と交流機会の提供を継続し、高齢者の学びを支え、生きがいのある充実した生活につなげていただけるよう支援してまいります。

社会教育施設については、生涯学習活動の拠点となる施設でありますので、指定管理者と連携を密にしながら、町民が気持ちよく利用できる施設の管理運営に努めるとともに、安心安全に利用できるよう計画的な整備を図ってまいります。

文化センターTOMでは、木材を活用したオリジナルのテーブルやパーテーション、椅子等を製作・設置することで、木のもつ優しさ温かみを最大限に生かし、町民が気軽に集い、楽しく過ごせるよう、憩いのスペースとして整備してまいります。

文化センターさざ波では、大ホールの舞台吊物装置について、老朽化に伴う故障や事故を未然に防ぐため、計画的な改修整備を実施いたします。

五鹿山スキー場では、オホーツクコース沿いの樹木の一部を伐採し、ゲレンデを拡幅することで、利用者の安全を確保し、利便性を図ってまいります。

第十三は、「スポーツの振興について」であります。

心身ともに健康な生活を営むためには、生涯にわたって誰もが体力や年齢に応じてスポーツや運動に親しむことが大切であります。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で3年間中止を余儀なくされた「サロマ湖100kmウルトラマラソン」や「上野カップ少年少女柔道大会」などのスポーツ大会のほか、住民参加型イベント「チャレンジデー」を開催し、町民の健康増進や生涯スポーツの推進に努めてまいります。

体育協会をはじめスポーツ少年団などの団体育成につきましては、「五鹿山マラソン大会」や「町民スケート大会」など活動の支援を図るとともに、スポーツ指導者の育成に努めてまいります。

また、体育館を活用して利用者個人に合ったトレーニング指導や運動教室を通じて、気軽に運動に親しむきっかけづくりに努め、町民の体力づくり、健康づくりの推進に努めてまいります。

さらに、各種団体活動や少年団活動において優秀な成績を収め、全道大会などへ出場する際の支援について、継続的に実施してまいります。

第十四は、「芸術文化の振興について」であります。

芸術文化は、人の感性を豊かにし、日々の生活に潤いをもたらすとともに、地域や町民の連帯感を深めるうえで大きな役割を果たすものであります。

本年度においても、子どもから大人まで幅広い年代に対して優れた芸術文化に触れる機会を提供するとともに、「良いもの見よう聞こう会」などの町民有志団体により、芸術性だけでなく娯楽性に富んだ芸術鑑賞会を企画実施いただいておりますので、今後もこれらの団体の支援に努めてまいります。

また、本年度から取り組む「eスポーツ」について、文化センターTOM内に設置する専用機器を活用して小中学生向けのeスポーツ講座を開催し、新しい生活文化に接する機会を提供してまいります。

また、文化連盟をはじめとする文化サークルの活動を継続的に支援し、豊かな人間性を育む芸術文化の普及振興に努めてまいります。

第十五は、「博物館及び文化財保護活動について」であります。

ふるさと館JRY・郷土館については、収蔵資料の整理を進め、適正な保存に努めてまいります。

また、本年度も学校教育との連携による体験型学習プログラムの提供や展示などを継続し、町民が歴史文化に触れる機会を提供してまいります。

文化財については、遺跡を保護し、次世代に伝えていく必要があります。

平成30年度より実施している北海道指定史跡「シブノツナイ竪穴住居跡」の発掘調査を継続し、専門家による調査検討委員会の開催、出土資料の科学分析な

どを行い、遺跡の範囲や年代などについて確認してまいります。

第十六は、「図書館活動の振興について」であります。

図書館については、学習活動の重要な拠点であります。そのため、本の購入、展示、質問への対応などの図書館機能の充実に努めてまいります。

子どもの読書活動を推進する取り組みをまとめた計画である「子どもの読書活動推進計画」は本年度から第2次計画がはじまります。この計画に基づき、ブックスタート事業、学校図書支援、移動図書館車運行、さらには各ボランティアとの協働による読み聞かせ会などの読書機会の提供を行い、読書普及活動の推進に努めてまいります。

以上、令和5年度の教育委員会の所管行政に関する執行方針を申し上げます。

教育委員会では、町民が生涯学びつづける環境づくりのため、一丸となり教育振興に取り組みますので、町民の皆さま及び町議会並びに教育関係者のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

湧別町教育目標

- 1 社会に参画できる実践的な能力をはぐくむ
- 2 自他を尊重し、ともに支える豊かな心をはぐくむ
- 3 自らを律し、自ら行動する積極的な心をはぐくむ
- 4 健やかな体と生命を尊ぶ心をはぐくむ
- 5 自然・環境を守り、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度をはぐくむ

(平成 24 年 2 月 21 日制定)

湧別町学校教育目標

- 1 自ら学んで、知性を高め、正しく判断する子どもを育てる
- 2 思いやりの心を持って、お互いに協力する子どもを育てる
- 3 忍耐力と自律の心を持ち、進んで行動する子どもを育てる
- 4 健やかな心身を持ち、自他の生命を尊重する子どもを育てる
- 5 ふるさとに学び、ふるさとを愛する子どもを育てる

(平成 24 年 2 月 21 日制定)

湧別町社会教育目標

- 1 自ら学び、地域に生かせる人を支える
- 2 他人を思いやる、あたたかく豊かな心の人を支える
- 3 人と人とのつながりを深める人を支える
- 4 健やかな心と体をめざす人を支える
- 5 ふるさとを知り、愛する人を支える

(平成 25 年 3 月 28 日制定)